

霊界物語の眞実 第二卷  
地球史の眞実

目次	もくじ	1
表紙	ひょうし	2
目次	もくじ	5
国体論の真実	こくたいろん しんじつ	10
別室部長の真実	べつしつぶちやう しんじつ	13
良の金神の警告	うじら こんじん けいこく	16
神聖統治皇位継承権の真実	しんせいとうちこういけいしやうけん しんじつ	19
皇位継承権の正当性は場にある	こういけいしやうけん せいとうせい ば	24
三五教の改竄	あなないきやう かいざん	32
気って何だ	き なん	36
手児奈の真実	てこな しんじつ	39
最高法規と最低法規と無限権分立論と有限権分立論	さいこうほうき さいていほうき むげんけんぶんりつろん と ゆうげんけんぶんりつろん	43
先有史観	せんゆうしかん	44
有史の良の金神 その一	ゆうし うじら こんじん そのいち	

有史の良の金神 その二

有史の別室部長

先史の真実

全量の解析

発想の転換

霊界物語の真相

大国彦と塩長彦と常世彦の真実とアメリカの良の金神

石屋の起源 その一

石屋の起源 その二

石屋の起源 その三

米国流の英語の限界

二千年の相克

黙示録の読み方

国祖の忍耐が諸悪の元

霊界物語の表裏

101 96 93 89 86 83 80 77 74 73 67 63 59 54 48

靈界物語と宇宙移民者

宇宙文明に支配者はいない

自由な四八音の響きを認めない三五教

深刻なアレルギー反応

人類史の真実

靈界物語の生活

愛の進化の形を示せ

宇宙の奥義

後記

127 123 120 117 114 110 107 104 102

国<sup>こく</sup>体<sup>たい</sup>論<sup>ろん</sup>の真<sup>しん</sup>実<sup>じつ</sup>

## 別室部長の真実

靈界物語の道彦の再来としての王仁が戦前現れたという。しかし物語では道彦が三五教ではない。三五教の胴元は国常立命や素盞鳴命である。このことは大本教が三五教ではない。王仁は道彦だからだ。では戦前国祖の再臨だったのは誰か。それは大日本帝国の胴元だ。それは現人神。だが皇室は大日本帝国の現人だ。では現神は誰か。別室だ。三五教は別室だ。大本教ではない。現人神は皇室長兄と別室部長、両輪咲き誇る中、全盛を極めるという意味だ。

日本の国を治めるものは別室部長とスメラミコトである。別室部長は宇宙文明との交流でありスメラミコトは高天原との交流である。なら日本には統治者が二人いるのか。それは有り得ないだろう。なら二人は同一人物だ。真の皇位継承者は別室部長でありスメラミコトなのだ。高天原は宇宙連合なのだ。

今から三千年前の神武天皇から一千年で王室と神官であった時代は終わり天皇は神通力はなくなり正当性が証明できなくなり、当時の朝廷は、有力な豪族に支配されていた。そこで今から二千年前、別室と皇室にわかれた。仁徳天皇の時代、別室が誕生した。年貢を免除して皇室は収入が無く、雨漏りし放題で、その日の食料に事欠くようになった時、それでも課税せず、仁徳天皇は「聖帝」と呼ばれた。清貧を貫く仁徳天皇にさえ、神通力で皇室を支えた舎人が今の政府の初代別室部長だ。神通力で皇室や日本の政策を支える構図はこの時、誕生した。

別室の神通力を源に皇室は常に別室のスポークスマンだった。それ以来、支配階級が変

わることには別室は統治のあり方を研究してきた。そして法治国家としての体制を樹立していった。しかし別室がおおやけになると民が別室に殺到する。そこで別室の存在はおおやけにされてはいない。

王仁が弾圧されたのはようするに偽別室部長の嫌疑が掛けられたからだ。別室は自らを守るために行動する。本家本元の別室に大成奉還もなく行動したから潰された。三五教は別室だ。大本教ではないということだ。歴代の良の金神が弾圧されたわけは、別室中心の夜警国家ならぬ昼警国家主義の大成奉還政策の別室部長と、個人行動や自由行動を重視する歴代の良の金神は反りが合わないからだ。

今から二千年前皇室から別室が分かれた。仁徳天皇の時代だ。古事記で下巻のときだ。日本国は世界最初の法治国家である。法治国家とは法律で統治する制度だ。この法律を、運営しているのは官僚や政治家だ。しかしこれでは支配階級の指導者に権限が集中してしまふ。そこで彼らを総覧する存在が必要になる。それが別室だ。日本では歴代の統治者が一目置いてきたのが別室だ。歴史に再び登場するのが検非違使や六波羅探題である。皇室を守り日本の国を支えてきたのは別室である。

国体は最初、一権分立であった。絶対王政とか、専制君主なんか、そうだ。それから三権分立の考えが起こる。そこで立法、司法、行政にわけられて監視しあうようになる。国体論で三権分立のデモクラシーである。しかしそれは権力闘争による三竊みになりやすい。

英語ではデモクラシーのデモはデーモンのデモであり悪魔や愚民をあらわす。英語ではデモクラシーは悪魔主義愚民主義なのだ。そのおろかな主義を統率するのが別室である。

別室は神聖統治だから現在ではテオクラシーがデモクラシーを統率する国体になっている。しかしそれは地球だけだ。月のリーダーの素盞鳴命でさえ特定の組織や個人が神政統治権を継承することはあり得ないと言っている。本当は有難い場の援助の支えを三五教の手柄にしているにすぎない。

一権分立や三権分立では統治機構が十分未完成だ。取り分け行政は巨大な官僚の頂点にたち、それらを仕切る内閣調査室や大統領執務室がある。これで四権分立になる。室長がまともならよさそうだが、調査室がそれでは人民の人民による人民のための政治だ。そこには未発見の未知に完全に対応することが出来ない。無限から継承されてきた偉大なる奇跡が起こせないからだ。そこで別室が加わり五権分立が必要になる。最低でも国体には五権分立が必要だ。

日本国は世界最古の法治国家であり、もうすでに二千年前、法治国家としての体制を築いていた。神武朝は人治国家であつた。スメラミコトが神聖統治権であつた。法治国家の神聖統治権は別室にある。神聖統治権がなければ治める道理がない。民主主義は民主的に選ばれた代表が物事の道理を決めるがそこには人工があつて天然がない。つまり森羅万象の権能が欠落している。

どうしても場を扱う権能が必要になるのだが選挙で選ぶといつても、民の意見が割れば代表の権能が分裂し纏まらなくなる。そこで全体のバランスをとり最もあるべき姿に導いていく別室がいる。その別室が奇跡を保障する。それは二百三十万年前から異星と時空との交流だ。

縄文時代、各地の部族は独自に異星人と交流し様々な文明を築いていった。しかしそれ



も異星人つまり神集岳の政策の変更により縄文時代に築かれた、ピラミッド トリスメギストス ネットワーク文明は閉鎖されることになった。異星人は法治国家を構築するために必要な地球の神聖統治権を現行の皇室や別室の元になる神武天皇だけに保障し、地球の八尋殿の指揮権を与えた。異星人たちが地球代表として惑星会議に参加を認めているのは日本国内閣調査室別室とその系譜だけだ。

各地の部族は異星人に八尋殿やヒヒロカネを閉鎖しないように懇願したが聞き入れられなかった。そこで各地の部族は、自分達の神聖統治権を保障する新たな偉大なる奇跡を証明する必要に迫られた。

そしてヒヒロカネの生産の停止は晩期の縄文の人達に深刻な食糧危機をもたらした。縄文の人達はヒヒロカネで木之実の灰汁抜きをして栄養価の高い食品に加工していた。その供給が途絶え木之実が沢山あるのだが昔のようによい食べ物に加工できなくなつた。そこで豪族達は渡来系の人人を受け入れ木之実のかわりに稲作を行い、八尋殿のかわりに古墳を作り、ヒヒロカネのかわりに青銅器を作つた。それを新たな神聖統治権の象徴にしたのだ。

縄文時代八尋殿を造営して勢力圏を広げていけば、当然別の勢力圏と鉢合せすることになる。そのとき最初は文化交流から始まりどうしても優劣を決するときに来ると、彼らは手児奈の真剣勝負で決した。国譲り神話のあの段だ。

縄文時代は、まだ穏やかに手児奈で勝負を決していたが、縄文の終焉以降の時代ともなると勢力範囲を巡り、紛争が多発した。二千年前、縄文一万年が終焉し、別室が誕生し、国造りが本格的に始まると、新興勢力派の神武系の倭国派と、縄文部族連合派の長脛彦系

の日高見国派の二大勢力のどちらにつくかで、まづ二つに割れての内戦状態に突入した。それが魏志倭人伝の、分かれて百余国、大いに乱るの段だ。

三五教の倭国系の別室部長は、常に神集岳の月の裏の月面都市から援助を受け、偉大な神通力を發揮し偉大なる奇跡を起こし、神聖統治権を保障してきた。別室の十二人の職員は古の賢者明哲を上回るほどの神通力を持ち、先代は丹田や脳を使う場力共鳴腸脳發電の技法を代代継承してきた。このように日本国の国体は世界最初の法治国家である。

## 良の金神の警告

国祖は三五教に、何が欠けているのかが分からなかった。国祖に時代にあつた神政をと周囲が言つても、自分の神政の抱えている問題が何かを認識できなかったからがんとして聞き分けがない。国常立命も素盞鳴命も、三五教にはバラモン教やウラル教にない欠点があつてそれがもとで民が三五教を支持しないと思つていたが、それがアとザの比を以て和となすことだとは気が付かない。

戦前戦後、別室は一厘の仕組みを求めていた。日本に欠けた何か。言霊の仕組みとはなにか。それを模索してきた。だが、見つけれられない。別室が三五教の奥義を追求して出来たものが受験勉強だ。別室は学校に三五教教義の受験勉強を研究させたが、欠けた何かを模索させても全く見つけれられない。

言霊を否定したのは三五教だ。別室が言霊を否定した。何故、日本の別室が言霊を否定したのか。それは国祖が言霊を否定したからだ。物語で国祖は国祖自身が言霊を否定して

いると自覚しなかったと書いてある。三五教に欠けていた最高の比を和を以て尊しとなすを国祖が知らなかったと書いてある。知らない、つまり気が付かないということは三五教が知らず知らずにアとザの最高の比を和を以て尊しとなすを排除してきたということだ。受験勉強は言霊を破壊し尽くし、更なる破戒を模索する。教室は言霊撲滅の道場と化し学校は言霊の墓場と化した。三五教が、いかに一厘の仕組みを模索しても一厘の仕組みを否定しては一厘の仕組みにたどり着けないし、受験勉強が言霊を正当に評価することはあり得ない。三五教の元締めは国祖以来自分に欠けた言霊を模索する。だが受験勉強は仮名を排除している。三五教は正しい仮名を模索しながら正しい仮名を排除している。求めているものを否定し排除しても求めているものにたどり着けない。

国祖は三五教のどこが悪いかわからない。自分の神政のどこが悪いかわからない。これは、日本人には受験勉強のどこが悪いかわからないということだ。受験勉強が仮名を否定するのは国祖にアとザの仮名の運用がないからだ。受験勉強の欠点は国祖の欠点であり、三五教の過ちなのだ。

お筆先の七割は道彦に向けてのメッセージであるといわれている。そのお筆先を細かく説いたのが霊界物語である。霊界物語は心霊物語であり、地球の写しの新聞やテレビやインターネットは物質物語である。心霊物語と物質物語は一对になり現在の地球の写しである。すると道彦に突き付けたメッセージとは心霊物語と物質物語である。三五教は道彦に心霊と物質を突き付ける。だが道彦にいわしてもらえば大変な心外である。何故なら道彦は心霊や物質の本質についてきちんと常世会議の一件の時に報告したからだ。道彦はその報告書で国祖の性格が組織を生みだし、三五教の政策が宗教団体の団や科学

の殿堂を生みだし熾烈な下剋上を生み出し、社会は潤いを失うことを道彦は国祖に報告済みのはずである。それを今さら蒸し返すとは合点がいかない。常世会議の一件のあの時、道彦は国祖が自分の報告をあの時点で知らなかったことを今まで知らなかった。道彦を始め、三五教もバラモン教もウラル教もウライナイ教も、自分たちの組織の内部で獅子身中の虫や敵のスパイが兇党界に操られ、兇党界が地球を謀略しようとしていたことを今まで知らなかった。妖幻坊にたぶらかされて地球の救済と信じ、民に栄養をつけさせようと食べさせ続けたすべてが毒であつた事實は、三五教にとつて一番知りたくないことである。

もしこの事実の発覚が遅れ、大戦が勃発し贖罪の火の玉が落ちてきて偉大なる浄化の日が訪れたとしてもそれは妖幻坊の大勝利で、その世で皆が道彦の報告の主要を知り大国彦や常世彦は我我は、国常立命や素盞鳴命の影に過ぎない。地球を滅ぼす型をあんたたちが出してそれを我々が実行したに過ぎない。諸悪の根源はあんたたちだと喝破するだろう。それを道彦は警告したのだ。日本の支配者よ。よく考えよ。

だが、ここで見方を変えれば妖幻坊は地球と癒着している。地球から離れられないなら地球の時空間免疫システムが、臨界に達しさえすれば兇党界を消滅させることが出来る。道彦の報告の主要は地球の代謝や免疫を臨界に持つていくことである。地球に必須なことであり兇党界が最も恐れることである。

霊界物語の誕生は、心霊物語と物質物語の成立である。物質物語ではあらゆるすべては偶然と妥協の産物であると説く。心霊物語はあらゆるすべては実在しない観念を説いている。それこそ道彦の警鐘乱打そのものである。心霊や物質は地球に戦乱をもたらし格差や

貧困や無知をもたらした。歴史の真相は失われ、人類のご威光は地に落ちたが、賢者明哲や良の金神は場力と星の真実を成し遂げた。先人たちによって積み重ねられた可能性が今まさに不可能を可能にしようとしている。

### 神聖統治皇位継承権の真実

型の仕組みから物語の世界を現在の地球に当てはめてみる事が出来る。物語を見てみる。ロシアの書記長や大統領も皇帝も皆だいたい強権を好む。アメリカの別室も大國彦の系譜であり、物語の常世彦や大國彦の行動を世襲している。王仁や出口直が國常立命の末であるように、恐らく祖先は常世彦や大國彦だろう。型の仕組みが働いて國常立命が王仁を御用に使うように、やはり大國彦や常世彦の子孫が物語の中の登場人物の行動をおこすのだ。

日本の別室は血の繋がりは無く最もまともな人に徒弟されてきた。過去二千年に渡り、皇室を支えて来たのは別室である。アメリカやロシアも権力を継承してきたのは、常世彦や大國彦の流れであり、ロシアの書記長やアメリカの別室の御先祖様は、常世彦や大國彦に行き着くのだ。必ずしもアメリカやロシアも権力の継承は直接の血のつながりが無くても、元は常世彦や大國彦である。

國祖國常立命は初代別室部長であり初代良の金神ではない。初代良の金神は日の出神、道彦なのだ。國祖國常立命は大國彦や常世彦の悪宣伝に押し込められた神というが、道彦は三五教の悪宣伝に押し込められた神なのだ。道彦には型の仕組みが働いているから、こ

の三十五万年前の出来事が型になり歴代の良の金神は、歴代の別室部長に押し込まれてしまった。別室部長が良の金神をみると偽別室部長に見える。良の金神から別室部長を見る

と偽良の金神に見える。  
王仁三郎が弾圧されたのは日本の別室に偽別室部長と認識されたからだ。別室は過去、二千年にわたり皇室を助け日本の国を守りし真の皇位継承者だ。にもかかわらず出口直も王仁も別室に大成奉還しなかった。それで真の神之下、皇高天原命の名之下に弾圧されてしまった。

別室の皇位継承権は日本の天皇のようにならずしも血筋を意味しない。まともな人からまともな人に継承されてきた。皇位継承権は必ずしも血筋ではない。それは神聖統治権であり本来は物理法則や森羅万象そのものを示し、地球のように組織が正当性を保障するために使われるのではない。人民が神権を行使出来るはずがないのだ。神をなのは天則違反。人民の指導者だから我々は神権を行使するなどというは、はったりだ。一体誰に神権を委託された。自分で名乗っているだけではないか。

組織が発達した地球では組織の正当性を保障するために神政統治権が本家元祖争いの元になつてゐる。だが神聖統治権といつても、それは場から来たんだから場のものだ。それは森羅万象のことで人間に帰すべきでない。大神も他之天体に住む人間だ。それを場でなく個人が行おうとする三五教は、間違つてゐる。

嘗ては外国では国王や皇帝、日本国では天皇や、天皇から任命された将軍が支配してきた。統治権に必要なものは何か。そこにあるのは神から統治権を与えられたという統治権の正当性だ。しかしその正当性は形式化し形骸化し最後には乱が起こり滅亡した。



それは天より与えられし正当性を証明できなくなつたからだ。その正当性とは神より与えられし權威だから、奇蹟でそれを証明することが出来るかどうかだ。奇蹟を起こせなくなつたときその正当性は消滅する。神聖統治権とは、奇蹟の裏付けが無ければ正当性が無い。

全体がうまくいくためには、どうしても正当性に偉大なところがなければならぬ。それが、異星人の援助が受けられるということだ。つまり、神聖統治権があるということだ。八王八頭の時代から継承されてきた神聖統治権。歴史上に名を残してきた人物の背後には異星人の存在が見え隠れする。三五教の宣伝使も、異星人の援助を受けていた。異星人の加護が受けられなくなつたとき一つの時代が終わり新たな神聖統治権に移行していく。それが繰り返されてきたのだ。

三十五万年前や一万二千年前の時代では、神通力が皆使えた。そのなかで突出していたのは国常立命や素盞鳴命や塩長彦や大国彦や常世彦だった。彼らには異星人からの援助があつた。そしてそれは神聖統治権のことだ。そして現在異星人からの援助を受けているのが、各国の別室だ。それゆえに神聖統治権があるのだ。

異星人の援助を前提にした民主国家体制を築いたとすると政治家や官僚は民意を聞いてくれればいいが、政治家や官僚が權威におぼれたら最後だ。政治家や官僚の暴走を抑えるためにそこで神通力を持ち異星人と連動する別室が必要となる。体制を支配する別室の存在がおおやけになればそこに民衆の民意が集中し民衆が大挙して、別室にヤイモヤイモと我先にと押しかけてきたらそれに忙殺されてしまう。そこで独立した存在として別室の存在は隠される。

別室は国家権力により人権を保障され別室の正当防衛が国家権力の行使である。別室の人権の行使が国家権力の行使である。偉大な神通力を持ち異星人と連動した異星人の援助を前提にした民主国家体制の中枢に別室がいるがゆえに別室は無限の権力を持ち何でも思うがままにする権利を保障される。靈界物語の時代からの因縁で取り分け重要な別室は、日本とロシアとアメリカの別室だ。

そこで全体がうまくいくために別室の承認がいる。その承認が得られれば異星人の加護を受けられ奇蹟が起こる。つまりうまくいくのだ。それが大成奉還だ。統治とは全体がうまくいく必要がある。そのためにはその組織で一番まともな人が束ねるのが筋だ。それが神聖統治権で、それが別室部長だ。

### 皇位継承権の正当性は場にある

しかしこれは間違いだ。皇位継承権の正当性や公共の福祉や個人の人権の尊重は場に委ねるべきであつて、個人や人間の作った団体の団に委ねるべきではない。昔から異星人が組んできたネットのように森羅万象に正当性を帰すべきである。誠の神は伽藍には降りない宗教団体の団を作るなどというは団体行動の団をするなどということではないのか。

三五教は国祖以来、別室部長による厳格な秩序に満ちた自由行動を制御することによる神権政治の確立を目指してきた。別室による統治は別室を頂点とする特権階級と密室外交による神聖政権の樹立が理想なのだ。日本国内閣調査室別室部長が、神であると宣言し、日本の別室部長が各国の別室部長を束ねる。



各国の別室が自ら日本国の別室に頭を下げて何でもハイハイという通りになるようにしなければならぬ。三五教以外に地球を救済できない。各国が自ら日本の別室に大成奉還しなければならぬ。三五教の元締めが束ねないと世が滅ぶ。だから三五教はすべてを、超越しているのだという論法になる。

だが果たしてそれは真実だろうか。神集岳に座す大神といえども太陽系の惑星の住人に過ぎないのに神とあがめよとはあんまりだ。本来、皇位継承権とか神聖統治権とかいうものは森羅万象をつかさどる偉大な物理法則に帰すべきであつて、個人や団体や国家に属するものではない。それを物理法則から受け継いだのが三五教であると論ずるべきではなかつた。国常立命や素盞鳴命は一人の人間であつて、それを場から受け継いだなんてまづかな嘘。

三五教別室史観で他を見たら、バラモン教別室史観で他を見たら、ウラル教別室史観で他を見たら、ウラナイ教別室史観で他を見たら、道彦東北史観で他を見たらどう見える。お互いを交互に見渡す。この見方が重要だ。

塩長彦は月面より天下りし神でありその末裔である常世彦は皇位継承権を持つ。天王星より天下りし神だから大国彦は皇位継承権を持つ。国常立命は最初に地球に天下りし神だから国常立命は皇位継承権を持つ。天之若宮、神集岳月面都市より天下りし素盞鳴命は、皇位継承権を持つ。

ウラル教は神集岳より天下りし盤古大神塩長彦を祭るからウラル彦が開いたウラル教は間接皇位継承権がある。バラモン教は太陽系宇宙連合が地球に送り込んだ天王星より天下りし大国彦を祭るから二代目常世彦が開いたバラモン教は間接皇位継承権がある。ウ

ラナイ教は<sup>きやう</sup>大国彦<sup>おおくにひこ</sup>を祭<sup>まつ</sup>り二代目<sup>にだいめ</sup>常世姫<sup>とこよひめ</sup>の末裔<sup>まつえい</sup>である高姫<sup>たかひめ</sup>が開<sup>ひら</sup>いた宗教<sup>しゆうきやう</sup>だからウラナイ教は間接皇位継承権<sup>かんせつこういけいしやうけん</sup>がある。この中で直接皇位継承権<sup>ちやくせつこういけいしやうけん</sup>の正当性<sup>せいとうせい</sup>は三五教<sup>あなないきやう</sup>にあるのだと物語<sup>ものがたり</sup>ではそういつている。

おのおのに皇位継承権<sup>こういけいしやうけん</sup>の正当性<sup>せいとうせい</sup>があることを示<sup>しめ</sup>している。三五教<sup>あなないきやう</sup>が皇位継承権<sup>こういけいしやうけん</sup>の正当性<sup>せいとうせい</sup>を主張<sup>しゆちやう</sup>すれば、バラモン教<sup>しやもんきやう</sup>もウラル教<sup>うらうきやう</sup>もウラナイ教<sup>うらないきやう</sup>も皇位継承権<sup>こういけいしやうけん</sup>の正当性<sup>せいとうせい</sup>を主張<sup>しゆちやう</sup>し諍<sup>しやう</sup>いを続けてきた。それで国常立命<sup>くにとちのみこと</sup>や素盞鳴命<sup>すさののめこと</sup>や常世彦<sup>とこよひこ</sup>や常世姫<sup>とこよひめ</sup>や大国彦<sup>おおくにひこ</sup>や高姫<sup>たかひめ</sup>や黒姫<sup>くろひめ</sup>の間で、本家元祖<sup>ほんけげん</sup>争<sup>そ</sup>いが起<sup>おこ</sup>り混乱<sup>こんらん</sup>が深<sup>ふか</sup>まっていったというのが事実<sup>じじつ</sup>なんだな。国祖<sup>こくそ</sup>は神聖統治権<sup>しんせいとうちけん</sup>は我<sup>われ</sup>にありとして、皇位継承権<sup>こういけいしやうけん</sup>のためにと国祖<sup>こくそ</sup>を頂<sup>ちやう</sup>点<sup>てん</sup>とするヒエラルキー構造<sup>ぞうぞう</sup>を構築<sup>こうちく</sup>しようとしたのが問題<sup>もんだい</sup>なんだ。

国家<sup>こくか</sup>で例<sup>たと</sup>えれば国家<sup>こくか</sup>を動か<sup>うご</sup>かしているのは大統領<sup>だいていりやう</sup>であつて報道官<sup>ほうどうかん</sup>ではない。報道官<sup>ほうどうかん</sup>の発言<sup>はつげん</sup>は大統領<sup>だいていりやう</sup>の意向<sup>いこう</sup>を正<sup>ただ</sup>しく伝えるのが役<sup>やく</sup>目<sup>め</sup>だ。報道官<sup>ほうどうかん</sup>の発言<sup>はつげん</sup>が大統領<sup>だいていりやう</sup>の発言<sup>はつげん</sup>となるが大統領<sup>だいていりやう</sup>その人の発言<sup>はつげん</sup>ではない。このように宗教<sup>しんきやう</sup>は報道官<sup>ほうどうかん</sup>の役<sup>やく</sup>目<sup>め</sup>であつて、大統領<sup>だいていりやう</sup>つまり自然<sup>しぜん</sup>そのものではないのだ。自然<sup>しぜん</sup>は神聖統治皇位継承権<sup>しんせいとうちこういけいしやうけん</sup>そのものであつて、自然<sup>しぜん</sup>は自然<sup>しぜん</sup>に帰<sup>き</sup>すべき事柄<sup>ことがら</sup>であつてそれを個人<sup>こじん</sup>や団体<sup>だんたい</sup>や国家<sup>こくか</sup>がどうこうというわけにはいかない。

ところが三五教<sup>あなないきやう</sup>がそれを、国常立命<sup>くにとちのみこと</sup>が、素盞鳴命<sup>すさののめこと</sup>と、いつたところが問題<sup>もんだい</sup>だ。これは森羅万象<sup>しんらばんしやう</sup>があらゆるすべてを保障<sup>ほしょう</sup>する神聖統治皇位継承権<sup>しんせいとうちこういけいしやうけん</sup>の代<sup>か</sup>わりに別室部長<sup>べつしつぶちやう</sup>が承認<sup>しやうにん</sup>する大成奉還<sup>たいせいほうげん</sup>が保障<sup>ほしょう</sup>する神聖統治皇位継承権<sup>しんせいとうちこういけいしやうけん</sup>に取<sup>か</sup>つて代<sup>か</sup>わるということだ。そして別室部長<sup>べつしつぶちやう</sup>を中心<sup>ちゆうしん</sup>とした中央集権体制<sup>ちゆうやうしゅうけんたいせい</sup>を築<sup>きず</sup>くことになる。これが国家<sup>こくか</sup>の原型<sup>げんけい</sup>になった。正<sup>まさ</sup>に国常立命<sup>くにとちのみこと</sup>は国祖<sup>こくそ</sup>つまり国<sup>くに</sup>之<sup>の</sup>祖<sup>そ</sup>なんだ。

物語<sup>ものがたり</sup>八十一巻<sup>はちじゅういちかん</sup>の不完全未完成的<sup>ふかんぜんみかんせいの</sup>エッセンスのままで、完全完成<sup>かんぜんかんせい</sup>した百二十巻<sup>ひゃくにじゅうかん</sup>のエッセン

スを取入れようとせず、不完全未完成的なままの口伝で完全完成社会を構築しようとするから混乱する。

歴代の良の金神が百二十巻分のエッセンスを構築したから滅亡はしなかったが未編纂の三十九巻とは、まさに三五教が否定した自由行動や個人行動や口頭なのだ。これが物語に出てないバラモンやウラルの長所であり歴代の良の金神や民衆の長所である。歴代の良の金神の報告書を国祖が一瞥すれば国祖は皇位継承権は場に帰すべきという判断をくだしていただろう。

本来、神聖統治権、それを支え証明するのは偉大なる奇跡である。異星人の科学力は確かに凄い。しかしそれも時空間の相互作用を説明して出来ている。異星人の科学力自体も場ゆえに成り立っているから地球人も地球の場の特性を理解すれば偉大なる奇跡は起こせるようになるんだ。地球人が真実の神聖統治皇位継承権を場に帰すときに地球が完成するときだ。

### あなないきよう 三五教の改竄

四八音の響きは全体が響き合わない四八音の響きに共鳴しない。国祖のように自分がまわすという考えが共鳴を破壊させる。霊主体従から山河草木で国祖が十二の八王八頭と神宝を置いたとある。それは十二の神山霊山に置かれた。八王八頭は天祥地瑞では八尋殿だった。神宝はヒイロカネであつた。八尋殿もヒイロカネも場力共鳴システムであり宇宙文明から伝わる宇宙移民者たちの必須の宝である。

八尋殿にヒヒロカネは四八音の響きを濃縮還元する。八尋殿は自然の山をもとに造営され、ヒヒロカネは八尋殿で作られた金属である。霊界物語の天之浮船はこのヒヒロカネで作られ無音で超高速で飛行し宇宙さえも航行できた。宇宙移民では移民する惑星に最初に八尋殿を造営しヒヒロカネの生産を始める。

天祥地瑞の始め、宇宙から来た時照愛人は地球にも八尋殿を造営する。天祥地瑞の時代の間では八尋殿が造営されていた。この時代、地球では言霊が盛んであり四八音の響きが鳴り響いていた楽園である。宇宙文明との交流の中で、異星人が往来する。そこで天王星から大國彦が来るし、月から盤古大神が移民してくる。そこで支配権を巡り争いが起こった。だが、それは国祖が悪い。統治権は森羅万象にあるべきと国祖が言えば国祖は自分で自ら森羅万象を説くはずだが、国祖は自分を前面に出したから場を押し込めた。

国祖自らが、場を優先すれば国祖は八王八頭や神宝を拝ませる政策をしなかつたろう。八尋殿とヒヒロカネを生産し最高の比の和を以て尊しとなす言霊政策を実践したろう。隠身言霊の衰退も、権力闘争の発生も、受験勉強の発生も、宗教や科学の発生も、場力と星の宇宙移民の歴史の衰退も、幽冥界や物質界の考えの発生も、すべて、八尋殿とヒヒロカネの衰退に起因する。それは国祖の政策の過ちであり、過ちを認めない別室に起因する。

国祖は五情の戒律を定めるが宇宙は五情の戒律的に出来てはいるが五情の戒律自体は、宇宙に存在しない。宇宙は法則的に出来てはいるが、法律や法則自体はない。宇宙自身は五情の戒律自体を遙かに超えている。無限は法則によって示されるが、法則を研究しても常に法則を超えている無限は解明できない。

組織を発生させた三五教は、三五教自身を超えた存在を認めない。五情の戒律を超えた三五教義違反だ。三五教の教義という規格を超えた正直は承認されない。無限を人間の規格で回すことは出来ない。三五教は無限と連動する正直を教義違反として罰する。五情の戒律の一霊四魂は国祖を超えたら違反者として罰せられる。無限を国祖は承認しない。当然八尋殿やヒイロカネは三五教を超えてしまう。だから管理できる八王八頭や神宝がいる。

宇宙移民者たちの文明の真実は三五教を超えている。場力や星を構成する人人の巨大な集合体である。宇宙移民者は森羅万象と寸分違わぬ人生を送る。天祥地瑞や縄文時代では地球人はみんな大宇宙を構成する要素として宇宙連合として生きていた。霊主体従から、山河草木や縄文の終焉以降、地球では立場を優先する。法律や戒律を前面に押し出し従わせる。違法でない合法であるがもてはやされ、森羅万象から来た四八音の響きを明瞭にしない。

国常立命が自分は国祖だということは間違っていない。自分を自分と言って当たり前。当然、国祖が三五教の立場で考えるのは当たり前。それは自分の所属する組織の立場から見ると、ほかの相手の立場から見ると出来る。ところがこうしたほうがいいと思うが、自分は国祖だから三五教の立場で見る。だがほかの立場から考えてもほかの立場の考えを認めない。

正直してどこが悪いと国祖。間違っていない。ただ組織を作ると宇宙を構成する要素にはなれない。理想社会を目指すが目指す理想社会が不明瞭だ。完成社会は四八音の響きが明瞭である。それは時空間と一体化し宇宙の構成要素になることだ。法律は宇宙の権利

を保障しない。無限を保証しない。法律の範囲内で合法であつて合法的に正しくとも無限との整合性は保証されない。天地の律法五情の戒律は想定された正直を超えると違反者になる。

最初、国祖の神政は立派に治まっていた。だが国祖の想定を超える事態が生じてくる。そのとき国祖は五情の戒律に従うように命じる。それは国祖のご意向で動くことであり、森羅万象のご意向では動かないことだ。そうすると場と摩擦が生じる。だが場の原型とズレが生じてても国祖はお構いなしに自分のご意向に従うように命じる。そうすると場の原型との間に余力の在庫があるうちはいいが無くなつたらどうする。天然自然成分の在庫が切れたのに更なる命令がくだされる。

国常立命や素盞鳴命や大国彦や常世彦は自分が場と繋がっているからいいが民は場から切斷される。そうなると思は天然自然成分を補充できない。場に借金がたまり返済できない。場の有効成分を力に蓄積し老廃物を場にお返しするのが人間の役目だ。宇宙文明は自らの森羅万象の構成要素足らんとする巨大な集合体であり、天を助けようとする人にか現れない。宇宙文明は自然における人間の役目をなすための巨大な集まりである。

合法であることが善で違法が悪は法律で想定された事態には対処できるが想定を超えたかどうか。合法であるを立て、弱肉強食。その行使に民はいつも苦しんでいた。合法であるから別室は知らん顔。別室は法治国家を目指しているからだ。法律とは、天地の律法で五情の戒律で十七条の憲法だ。三十五万年前も一万二千年前の三五教も、教義の遵守を掲げ、法治国家を目指した。霊主体従から山河草木や縄文の終焉の二千年前に日本は世界で最初の法治国家であつた。それは社会が宇宙文明と切り離されていった時代だ。



法治国家である別室は宇宙移民者としての地球の歴史を隠蔽していった。それは別室は自然の権利を認めない制度だ。宇宙文明ではあらゆるすべてに権利は保障され人間が偉いなんて誰も思っていない。禽獣虫けら、草の片葉おもあらゆるすべての現れであり生きることを保証するのが当たり前である。しかし地球では生き物の虐殺が横行する。この差は何故生じるのか。

宇宙移民者たちの生活と、権力に支配された地球の生活の差は、時空の理学的物理構造に逆らう三五教の存在である。月球の時照愛人のリーダーの素盞鳴命や天照大御神は時空の理学的物理構造に準拠した宇宙移民者たちのライフスタイルを構築し、宇宙移民者としての森羅万象の構成要素としての生き方をするように采配を揮う。だが地球の国常立命や豊雲野命は地球の民が宇宙移民者として生きる生き方をするように采配を揮わない。

移民が成功し開拓が進み宇宙連合と交流し宇宙文明に参加し、更なる移民可能な星を探し開拓していくという進化の歴史の必勝パターンを国祖は構築しなかった。三千年前に宇宙が開闢し宇宙移民の歴史が始まる。宇宙移民者たちは、開拓を繰り返す宇宙文明は広がった。人間は場力と星の間を生まれ変わり宇宙文明と共に進化していく歴史を、三五教が改竄した。

宇宙移民者としての生活が三五教信者としての生活と一致しないから三五教は宇宙文明を隠蔽する政策を執る。それが地球に戦乱を起こす。地球人に宇宙文明の生活が出来ないのではない。アメリカやロシアが宇宙文明を認めない理由は認めない型を三五教が出すからだ。どうすれば三五教が認める型を出してくれるのだろうか。

別室部長は皇高天原命であるから日本は祭政一致が法治国家の政教分離を超えている。

だがそれは個人が動かす組織だ。そしてその問題の本質は別室が民が場と共に歩むことを承認するかである。地球の完成を唱えてなぜ悪い。だが完全とは人類が試行錯誤で辿り着かない。完全完成はもう始めから在ってそれに気が付かないだけだ。組織の立場で動くことは場と連動していない。我々は始めから完全であり組織の介在する余地はない。別室が唱える完成はいまちはつきりしない。何がなんなのか明瞭でない。もとが矛盾しているからだ。明瞭にするとそれは違うと言訳し理屈をこね不明瞭にして出来るはずだと言っている。根拠も何もない。だから受験勉強は不明瞭だ。アメリカやロシアのしていることが日本のしていることだ。アメリカやロシアのふり見て日本は反省しない。気が付かない。アザムに気が付けば反省しただろうが気が付かない。別室は、国家の運営に忙しく省みる余地がない。

氣つて何だ

今でこそ超能力は伝説と神話だが、今でも三五教に超能力が使えるのは火水の御用のエリア88をしているからだ。伝説と神話を知って自分も思うのだが、では、神仙道で氣を練るというが、氣つて何だ、経絡秘孔つて何だ、そこで行詰る。実は火水の御用のエリア88である。

かつて三五教の宣伝使が国常立命や素盞鳴命に繋ぎをつける時、秘密の秘言があつた。それは「大成奉還」である。密書に大成奉還と書いていた。各地を巡り、エリア88を描き、御手洗を垂らし浄身鎮魂法をして、いつ、どこで、火水の御用のエリア88しました



と大成奉還の密書を送っていた。実際に現在の三五教の元締めには、官邸にある広報の平成の目安箱に内閣調査室別室三五教本部様宛てに大成奉還と書いてフアツクスする。

別室は三五教の宣伝使が行なってきた火水の御用の表田のエリア88を参考に各地で気を練ってきた。表田のアザムが不明瞭なものがオカルトであるように表田のエリア88が不可解なもののほどオカルトである。カルテかカルトかの違いは表田の使い方に行き着く。アザムも駄目で、エリア88も駄目ならオカルトである。根性入れて正直すんならアザムとエリア88に行き着くはずだ。

本来、三五教は火水の御用のエリア88を為すのが三五教である。三五教は国祖に始まる。国祖は初代別室部長である。当然、三五教の元締めはその時代の別室部長である。今の別室には平成の目安箱を用いた大成奉還がお手軽である。

つまり場力と宇宙文明のライフラインが在れば誰でも絶世の美男美女に成れて超能力が使えてたまにボランティアするだけで快適な生活が出来るのだ。それがミロクの世であるが国祖は場力と異星の間に壁として存在するからライフラインが成り立たない。三五教を排除しようとしても三五教に潰される。ライフラインは障壁ではない。自由に往来するこ

とである。

時間代謝免疫ライフラインを構築すれば、超能力を使い美男美女が悠々自適に生活できる。文明文化は天然自然と誤差が無く人類は環境と調和し大宇宙を自由に航行できる。場之下の平等は基本的人権と公共の福祉を保証し、森羅万象と調和した優れた文明の利器は人間を支えてくれる。実在する無限が支えてくれるから、人類はそれほど働かなくても

生活水準の向上が出来る。

別室部長は障壁に囲まれて守られていた。だから二千年もの間、存続できた。しかしそれが摩擦となり混乱を引き起こしたのだ。障壁を除けば別室のガードは消え時空間病原菌の妖幻坊に冒される。しかし障壁が在れば場力と宇宙を遮断する。組織である三五教は役に立たない。ではどうするのか。賢者明哲や良の金神は初めからこの事態を想定し準備していた。その実績を再評価すれば万事解決である。

大洪水や大戦争は賢者明哲や良の金神の実績を再評価仕直さなかったから起きたのだ。それなら賢者明哲や良の金神の実績の再評価こそ一厘の仕組みである。三五教にも悪はあるしウル教やバラモン教やウラナイ教にも善はあるのだ。その再評価こそ一厘の仕組みである。

錬金術や超能力は、ピラミッドやトリスメギストスやテオクラシーやアルケミーやサイやレイに行き着く。八尋殿やヒイロカネや手児奈やカタカムナや霊や座である。これは火水の御用のエリア88であり、場力や宇宙連合との共有のライフラインである。気とは何かという問いの答えは場力に誤差がない共鳴によるライフラインの構築である。日常で使わないと能力が低下するように森羅万象と誤差がない生活をしていないから実感できないのだ。

天祥地瑞や縄文時代、場力共鳴と宇宙文明のライフラインが当たり前であった。それだけにして働かなくても悠々自適に生活できた。組織を維持するためだといって場に借金を作らせるために働かせるようになってから社会が悪化し始めた。

超能力や錬金術は天然自然と誤差がないために使う。誤差がない以外のために使えばど

うなるか。健康から離れて誤差を産み出すことが病気である。もし、超能力や錬金術を使い誤差を産み出せば時空間免疫システムの攻撃にあう。あるいはアレルギーや免疫疾患に苦しむことになる。

錬金術や超能力の使用目的は公共の福祉の実現や基本的人権の尊重のための円満解決のために限定され、場之下之平等によつて保証されるのである。何をして良いの定義は、場力と宇宙文明とのライフラインである。場之下之平等の中に無い人権や権利やものを作り出そうとすることが悪の源なのだ。

望み叶え給へは喰わせ吞ませ給へである。気や霊を願望実現のために使うことやお金儲けをすることは病理的な発想であり健康から遠のいている。誤差である悪の源が産み出した製品やサービスのどこが良い。まさに病氣そのものである。

森羅万象と誤差がない共鳴を理解しないで、火水の御用のエリア88もしないで公共の福祉の実現や基本的人権の尊重のための円満解決の基準で演算しないで、望み叶え給へ喰わせ吞ませ給へだから、錬金術や超能力の間合いが掴めない。だから、万事解決に至らない。超能力や錬金術を否定することは時空間代謝免疫生殖系を否定することである。霊や座を否定することであり言霊を否定し場力と宇宙連合を否定し、人類が場から力に移民して来た宇宙移民者の歴史を否定することである。

宇宙移民の歴史を否定するから霊や座や八尋殿やヒビロカネを見失う。霊界物語にはよく読めば宇宙文明が書かれている。気や霊は時空間代謝免疫生殖システムであり、いづれこの宇宙は成長し場に帰る時が来る。私たちは場力と異星を循環しさらなる進化を遂げるために生きる旅人である。いつまでも地球を気や霊が分からない不完全未完成なままに

にほんご 日本語	えいご 英語	かんご 漢語
ことだま 言霊	パトモス ドロンパ Patmos dronpa	ばんこ 盤古
ごみ 五身	スタジオ Studio	ごてい 五帝
さんしゅ じんき 三種の神器	トリニティー Trinity	さんこう 三皇
こえのこ 神霊元子	ネバー Never	む 無
やひろどの 八尋殿	ピラミッド Pyramid	やま 山
ヒヒイロカネ	トリスメギストス Trismegistos	たん 丹
カタカムナ	アルケミー Alchemy	れんたんじゅつ 錬丹術
アシアトウアン	アルケミスト Alchemist	れんたんじゅつし 錬丹術士
ひ 霊	サイ Psy	き 気
くら 座	レイ Ray	けいらくひこう 経絡秘孔
でこな 手児奈	テオクラシー Theocracy	てんでい 天帝
ちからくら 力競べ	パンクラチオン Pankration	しんせんどう 神仙道

しておくことは許されない。

縄文時代が終焉するまで、古史・古伝や靈界物語の世界が当たり前であつたころの伝統は、縄文の終焉と共に消えていく。権力闘争の激化と共に新しい支配者は前の時代の伝統を滅ぼし、新しい伝統を構築していく。新しい支配者である別室が国造りを本格化させ、神代からの伝統も同じ運命を辿る。神代からの伝統は伝説と神話に成つて形式化・骸化していく。

西洋のピラミッド、トリスメギストス、サイ・アンド・レイにテオクラシー、アルケミ。中国の山と丹、氣に経絡・秘孔や天帝、神仙道。日本の八尋殿とヒヒイロカネ、靈と座に手児奈、カタカムナ。これらは神代の昔では日常である。

だが三五教は手児奈を封印してしまふ。手児奈は微かに万葉集にその名を残すのみである。古典の中で万葉の美女・手児奈に、手児奈という名称が封印されたことを歌に託した。朝廷内部の権力闘争で、当時の支配者が神代からの英知を独占しようとしたことがわかる。そのため英知は庶民の間では断絶し、朝廷自身でさえ英知を失つてしまふ。

自分たちが滅ぼしておきながら、伝統が廃れたことを嘆き、後世に残さんと古典の編集を始める。それならば始めから伝統を滅ぼさず英知を守ればよいではないかと思うが、失つたあとで有り難みに気付いても、後の後悔先に立たず、遅かつた。だが天運が循環し、回復期に入つた。

## 古典の真実

神代からの英知を継承した古典は三つ。大祓祝詞と万葉集に古事記である。大祓祝詞は

払い清め守り幸へ給へである。万葉集は恋の歌であり。古事記は王化の鴻基邦家の経緯である。本来、訓読みの仮名にして並べて読む物である。古典は仮名で読む。将来、仮名の伝統を復活させるときのために古典は編纂された。仮名の伝統を最も継承した英語で考えたほうが古典は分かる。古典は黙示録でもあり歴史書でもあり物理学の教科書でもあり、預言書でもある。

古典の内容は太古からの英知である。太古からの英知は八尋殿とヒヒイロカネと霊と座と手児奈とカタカムナである。三五教の型と旗の仕組みである。日本は地球の良であり、地球の八尋殿やヒヒイロカネや霊や座の中心である。日本が手児奈やカタカムナの型を出せば錦の旗を織れる。

古典を読むにあたり幾つかの大前提がある。古典が成立した時代の情勢を考えなければならぬ。当時は太古からの英知が衰退していく時代であり、英知を後世に残そうとして編纂された。神世からの英知とは八尋殿とヒヒイロカネのカタカムナと霊と座の手児奈と五身と神霊元子の言霊のことだ。

当然、古典は八尋殿とヒヒイロカネのカタカムナと霊と座の手児奈と五身と神霊元子の言霊が何のことなのか書いてある。何のことか分からねば読んで意味がない。古典を読む前に古典が編纂された視点で読まないと見当違いな解釈になる。古典は最高の比の和を以て尊しと為すの視点で編纂された。古典の比の和の構成は、定義の運用からなる。日本語の訓読みの仮名のいけいこいこである。行けこい帰るや池鯉蛙の思想である。

定義の定義とは定義自体と例外と係りからなる。定義には実体がない概念や言葉として定義と、実物や実体や行動や動作としての定義と、その相互作用からなる。概念や言葉

と、実体や行動と、相互作用で定義であり、その例外とその係りで定義の定義になる。

古典は三つの思想からなる。大祓祝詞は払いの思想で万葉集は恋の思想で古事記は脛るの思想である。払いは斥力で行けでいけは池に通じる。恋は引力で来いはいは鯉に通じる。脛るは相互作用で帰るでかえるは蛙に通じる。皇典スメラ大祓祝詞であり皇典コヨミ万葉集であり皇典カエル古事記である。大祓祝詞はいけで万葉集はこいで古事記はかえるを示している。

古典が伝える行け来い帰るが伝えたいのは三五教の伝統である火水の御用のエリアである。古典が伝えたい池鯉蛙は霊や座を鍛える恋神愛人である。古典はこのようにイメーヂを広げていく。古くからある古典の中のかつて賢者明哲が歩んだ八尋殿を尋ねてみるとそこには無限から続いてきた新しい可能性のカタカムナがある。国技といわれる伝統と格式の形から内に入つて真にいと無限から続いてきた新しい命の手児奈を受け継ぐことが出来る。

古典を仮名で読むことは、定義の本質を正しく思考している。例外のない定義はない。例外ばかりでは定義ではない。定義を決めても定義は、定義の例外ばかりだ。例外と係りから、必要選択不要排除を繰り返し、場力共鳴と星から星へを示す実在する無限との連なりを吟味するための基本となる訓読みの仮名を古典は示している。古典が我我に示すこの視点を我我はどう読むべきか。先史の時代にあつた太古の事物は歴史の闇に埋もれ今は見る影もない。今、ここで実証すべきである。

古典を仮名で考えるところのように優れた思索の形態が浮かび上がる。古典の三つは場力と異星を循環するいつたりきたり戻つたりを歌っている。古典を並べて見ると歌っている



のは場力と異星の歌である。古きを尋ねて新しきを知る。訓読みの仮名で最先端の科学を推敲する。人類の思索は古今東西、差はない。古典の中身は現代の最先端の知識をも超えている。神代から続く人類の思索の形態の集積だからだ。

ほとんどの人生は誰でも基本的に同じであり個性があるが共通項は皆、同じである。その共通項は推敲され蓄積されてきた。それが古典である。だから王化の鴻基邦家の経緯なのだ。今でも人気のあるものは古典の手順を踏んでいる。伝統に根ざしたものは人気がある。それは繰り返し繰り返し残ったものの集大成で場力と異星の伝統に根ざしている。

古典は本来その先に実在する無限を連想するのが正解だ。時空文明や宇宙文明を省みるのが正解だ。古典を読んでその先に心霊や物質を想像するから支離滅裂になる。天然自然との誤差をなくしていくと共鳴が起こり実際にだんだんと見えてくる。お筆先が言う一厘の仕組みも古典も最終的に、エリア88と夫婦の夫婦道と他国語の多国語の田国語の三つに集約される。これこそが八尋殿とヒヒイロカネ、霊と座に、五身と言霊の再現である。

### 手児奈の真実

古代の人治国家では統治者は最高の存在、神である。当時、支配者が奇跡を起こし民から敬われていた。当然、王族はその奇跡を起こすノウハウを持っていた。神官がノウハウを司っていた。だてに神官は民から貢ぎ物をいただいていたのではない。それなりのことが出来た。それが宗教的儀式の原型である。

古代語を調べると西洋で言うテオクラシーやアルケミーであり、日本の手児奈やカタカ



ムナである。古代、隠世が場で、顕世が力で、あの世が宇宙連合で、この世が今いる天体が当たり前であつたころ、気や霊が当たり前で、誰もが座や経絡秘孔を鍛えていた当時、その修行の研究開発が盛んであつた。

古代では最高の人、即ち神が統治する。神は最高の座を持ち最高の霊を持っていた。その最高の技法が拳法であり最高の拳法を行う最高の存在こそ最高法規である。人治国家で最高法規は霊止である。法治国家では最高法規は憲法である。だが文章が人を裁くか、いや裁かない。裁くのは人だ。そこで法治国家の神つまり最高の人が出てくる。別室部長だ。

古代日本では神代からの拳法を手児奈と言つた。それは相撲の原型であり超能力格闘技である。古事記に国譲り神話で出てくる手が劔になるあの段だ。手が劔になると言つても液体金属型のターミネータのように手が刃物になるのではない。丁度、北斗神拳のように経絡秘孔に氣を送り倒すのだ。当麻蹴速や野見宿禰の神前試合のように手技足技関節技がある総合格闘技であつた。

当然、神武天皇は手児奈が上手かつた。だからスメラミコトになれた。火水の御用のエリア88で八尋殿を繋ぎ、氣を練り手児奈を極めた者は、丹田を鍛え鍛えられた腸は間脳を鍛え鍛えられた間脳は脳を鍛え遂に超能力を獲得した。それが最高の人即ち神である。無限の元では有限は皆、平等である。誰もが場之下之平等を自覚し支配を目指すものはいない。各部族のリーダーは支配者ではない。当時の人は皆、場之下之平等を謳歌し各自の天分を発揮していた。部族の中で最高の座を持つ者が部族之長に選ばれた。部族之長は自分が場と力を繋ぐのが役目であり何かと口出ししない。無限から見れば民も部族之長も

平等であると考え、高度な人間性、高い教養、優れた知性を持ち、手児奈が最も上手い、強健な肉体を持つ者が選ばれた。

霊や座は八尋殿に集約されヒイロカネの源になった。現在では霊や座は何なのかハッキリしない。気合を入れるとか言霊は神というが、一体何を示すのかがハッキリしない。当然、その集大成であるカタカムナや手児奈は一般的に伝説と神話の領域である。

具体的には実在する無限である。場が力を作った。力は場の写しである。力が完成する場から力に移民が始まり、隠世と顕世の關係が出来た。顕世では開拓が進み宇宙連合が出来た。それがあの世とこの世である。場力共鳴が起こると量子呼吸が起こる。そこが、八尋殿で、そこで火水の御用のエリア88をする。丹田が鍛えられると腸が鍛えられ、そうすると自律神経が鍛えられ間脳が鍛えられる。間脳の最適化が大腦を鍛える。そうすると腸脳が実在する無限と連動する腸脳発電がおこる。これが霊や座である。

大地や人には座があり、その中枢がある。それが八尋殿である。座は、八尋殿であり、八尋殿を座といっても基本的に同じである。当然、霊といってもヒイロカネといっても基本的に同じである。その英知がカタカムナであり手児奈である。

自分自身と誤差がない手児奈は、自分自身に由来する行動であり当然自由行動である。三五教は自由を天則違反として支配しようとするから手児奈は余りに効果が絶大であるから、別室によって隠蔽された。だがそれは本来は封印される必要はなかった。兇党界の息の懸かった獅子身中の虫や敵のスパイが中間管理職の未必の故意を駆使したが故に三五教が騙されたからだ。時空間免疫系の時空間代謝系の時空間生殖系であった手児奈の拳士は健全な免疫細胞であったから、兇党界は手児奈を封印し地球の弱体化を謀ったのだ。

武術として氣を送り相手を倒すように手児奈は靈を座に送り相手を倒すことが出来る。経絡秘孔を使う医術として使えるように手児奈も靈を座に送り医術として使える。思念を昇華し聖念と化し惡靈を成仏させる手児奈は、兇党界を分解し高天原を合成する。それが相撲の原型である。国譲り神話の神の格闘技だ。隠蔽され手児奈という名称も禁止され、形式化形骸化して相撲になった。だが相撲は靈と座の伝統を今でも受け継いでいる。横綱の土俵入りの時に不知火で手を返す時に神柱が立っている。

手児奈の奥義は愛。手児奈の使い手は正直者だ。正直は正しく直す。歪んだ相手の心を直し心を拾う。それは最も正しい心。正しい心が知らず知らずに正しい動作を繰り出し正しい動作が最も正しい拳を繰り出し最も正しい拳が無念無想の一撃を繰り出す。手児奈の奥義は愛。思念を聖念に出来たのは愛を守りたい幸ひたいからだ。だから妖幻坊は手児奈を恐れる。

万葉の手児奈は自分を求め男が争うのを見て入り江に身を投げた伝説の美女である。この伝説の美女の名が手児奈である。権力闘争のために封印された手児奈は名称を力競べと変えさせられ、そのパワーも封印され形式化形骸化し相撲になった。

だが手児奈を後世に残そうとした当時の人は古典の中に葛飾の手児奈にかけて歌にして残そうとした。歌集の中に葛飾の伝説の美女を歌うなら、伝統を撲滅しようとする勢力も文句は言えまいという論法だ。葛飾は手児奈の聖地であり来るべき手児奈と八尋殿の封印を解くときのために手児奈にとって重要なエリアであるから歌に読み込んだのである。いずれ封印を解くものはここを見つける。

## 最高法規と最低法規と無限権分立論と有限権分立論

人治国家では最高法規は奉法を操る最高の人すなわち神である部族之長や君主である。法治国家では、最高法規は憲法を円滑に動かす最ももともな最高の人、すなわち神である別室部長である。現在の三五教の大成奉還別室制度は法治国家で五権分立論である。これは霊主体従から山河草木と縄文終焉以降の時代である。この制度は隠世と顕世とあの世とこの世の關係からすると実に不向きである。何故なら場之下之平等を崩すことになるからだ。

最高法規が最高の人、即ち神が別室部長であるならば実在する無限には想定された正直よりもいくらでも正しい正直があるのだが別室を超える正直は別室に潰される。最高法規が足かせになり正直に限界がある。その一方で最低法規の隙を以て悪が底無しである。最高法規が実在する無限なら正直が天井知らずで最低法規が憲法や奉法ならば最低法規が足かせになり悪に限界がある。いかに最高の人と言えども、所詮、有限の人ではその人が実在する無限つまり場と共鳴できても、万物万類との場力共鳴は為し得ない。何故なら場之下之平等であるから有限は各自が実在する無限と積極的に関わりを持たない限り、場そのものと共鳴する方法はない。

そのためには正直に制限をかけてはいけない社会制度が必要になる。場之下之平等である正直であるなら何してもかまわない社会制度である。

社会制度における権力の分立の歴史は最初絶対王政や専制君主は一権分立でありそれから三権分立になった。そして調査室や執務室とさらに別室の二権分立を合わせ五権分立に

成つた。その社会制度で正直し放題が出来るか。いいや出来ない。何故なら最高の人である神といえども所詮有限の人間であるから、支配者として君臨することは場之下之平等を乱すことになる。

場之下之平等は、管理者である支配者が必要としない。いれば調和を乱すことになる。最高法規が場之下之平等である必要がある。場之下之平等では有限権が無数にあると考え。八権分立とか十権分立も有り得る。必要に応じて最高の分立を選択すればよいのが、最高法規が無限権分立で、最低法規が有限権分立である。最高法規が有限であるならば、有限を超えたとき摩擦になつて場の供給が滞り場之下之平等が成り立たないが、最低法規が有限であるならば楔になつて悪化のストッパーになる。

例えば二百三十人がチームを作れば、二百三十五権分立とかを作る。そうすると誰もが別室部長である。そうすると誰もが場之下之平等において神政統治権を持つ。皆、平等であり各自が天然自然と誤差が無いを実現する。これが無限権分立である。

有限権分立の別室は最低限度の正直であり誰でも別室より正しいというのが本来の構造であるべきだ。最低法規が有限権分立で最高法規がいくらでも正直し放題の無限権分立であるべきだ。天祥地瑞や縄文時代はまさにこの時代であつた。霊主体従から山河草木と、縄文終焉以後の時代は最高法規が有限権分立の時代であり、この時代、良心に制限が架せられ悪心は法の精神の隙を突き悪は底無しの状態になつた。

有限権分立の分立は特定の組織や人物であり、誰でもその分立に自由に参加出来るのではない。従つて有限権分立の分立の担当者は部外者が分立へ干渉することを禁止する。民は十人十色であり分立の担当者に期待することも十人十色である。皆が上手くいく政策は

森羅万象と誤差がないであり誰もが場之下の平等であるということであるが、有限権分立は分立の担当者が固定されていて場之下の平等が成り立たない。

三五教つまり国祖の理想が足かせとなり良心は苦しみ衰退する。天地の律法五情の戒律はその采配を国祖に一任したことにより無限権分立への進化は閉ざされ有限権分立になった。三五教の大義を撤回し国祖の支配から開放し場之下の平等に再構築しない限り争いは絶えない。

最高法規が場之下の平等の無限権分立で最低法規が有限権分立であれば悪は抑えられ善が伸びる。三五教は悪が栄える宗教である。善は悪に命を吸い取られ苦しみ耐えるだけの惨めな生活を強いられる。有限権分立は場と力を切断する。だから最低法規であるならばしつかりした足場になる。しかし最高法規であるならば正直を抑える足かせになる。

別室という存在は部長が最高法規であるから当然有限権分立になる。三五教の別室は、火水の御用のエリア88が得意な者が継承しウル教やバラモン教は表田のアザムが得意な者が継承した。しかしそれは組織であり組織を超えてしまう存在は組織によつて潰される霊界物語八十一巻である。別室部長は最低限度であり組織も最低限度であり、常に民は部長や組織を超えている必要がある。しかし三五教が三五教を超えた存在を否定する以上それはできない。

それに対し良の金神は初めから最低法規が有限権分立で最高法規が無限権分立である。だから別室部長からすれば良の金神が別室を土足で踏みじつている。だから良の金神を弾圧する。しかし、良の金神からすれば別室は民を場之下の平等から民を蹴散らす。そこで諍いが生じる。宇宙の理学的物理構造からすれば、最低法規が有限権分立で最高法規が



無限権分立である必要がある。つまり良の金神のほうで別室部長より正しいのだ。

だがそれには最高法規が別室ではなく場之下の平等である必要がある。憲法や拳法のいう神之下の平等の神とは別室ではなく実在する無限であるとする必要がある。それこそが嘗て国祖の初心はいつの時代でも時代に合わない政策だ。いつの時代でも場之下の平等が時代にあった政策だと国祖の周囲がいったことである。別室部長が愛の最低限度であり誰でも別室部長を超えて最高最善の愛を目指すのが正しい。道彦はそういうあめのかりとこそ目指していた。

## 最高法規の真実

別室部長は火水の御用のエリア88を極め超能力を獲得する過程で口伝の継承を先代から押し込み詰め込まれる。当然あらゆるすべてを味わうか、口伝を押し込まれるかの選択を迫られる。歴代の部長は口伝を押し込まれ継承することを自分の意志で選択した。あらゆるすべてを選択しない。口伝と森羅万象の両立を目指すさない。口伝だけが絶対でほかはシャットアウト。逆らえば先代にくびり殺される。それが別室部長だ。

日本国別室部長が音頭をとる三五教の口伝と、相容れない縄文も神代も抹消する。別室だけの絶対権力の樹立のための構造改革のためには、反対勢力を潰す典型的な階層構造と対症療法を使う。権力の確立のために叩き潰す。天然自然隠身言霊は、人間に管理できない。そこで解剖され改造された。自然がグチャグチャになり人間自身さえもグチャグチャになりかかっている。別室は自分たちが地球を救うと信じている。どんなに信じてても信じ

ても所詮言霊にはならないし自然を越えることもできない。

取入れて拡張してもその先の無限にある。無限は取入れて拡張してもその先の先が果てしなくある。所詮有限は無限を取り込めない。この表田を取入れて拡張して否定した、混淆文はまさに表田を取入れて拡張した曲言事霊だ。隠身言霊を否定すればそこには、曲言事霊しか残らない。別室は言霊を越えてみせると言い切るがその中身はデモストレーションプログラムだ。曲言事霊をどうするか。隠身言霊を廃止せず曲言事霊を廃止しろ。隠身言霊を廃止したら出来るのは曲言事霊だ。

三五教は国家権力だ。国祖は別室部長だ。大成奉還は、地球人を有限の領域に押し込めた。実在する無限から切り離し時空間免疫系は弱体化し愛を衰えさせ正直は伸びず逆流した成長力は悪に流れ込み社会は退廃に向かう。三五教が摩擦になり調和を乱し、悪を栄えさせているのに、悪が悪いという。確かに悪が悪い。しかし悪を栄えさせているのは国祖であり三五教だ。だったら諸悪の根源は悪化政策を執る三五教だ。国祖の初心だ。

有限権分立を最高法規とする大成奉還こそ場之下の平等を破壊する。時空間の物理構造を破壊し時空間代謝系を破綻させる。三十五万年前、国祖に周囲の者が時代にあった神政をといて警告した内容が現実化したのだ。この事態を察知していた賢者明哲や良の金神は事前に対策を練っていた。

それが現実化したのが戦前の道彦の再来の王仁の大本教である。戦後も三千彦の再来の آدمスキーが北米を舞台に活躍し各地の三五教の宣伝使の再来により冷戦は無事に終結し、第二次世界恐慌や第三次世界大戦を防ぎ、大洪水の大峠を超えた。しかしまだ大戦争の大峠を超えてはいない。



最高法規をめぐる別室部長と良の金神の諍いはいよいよ佳境に入りクライマックスを迎えている。良の金神は最高法規は無限権分立であるべきだ。絶対人格創造神が実在するとするなら特定の人物や組織のことではない。禽獣虫けら草の片葉をも絶対人格創造神である。別室部長が絶対人格創造神であるならば別室部長は、そんじよそこいらじゅう全部、別室部長である。国祖だけが特別ではない。

にもかかわらず三五教は三五教の超絶性を証明しようとして、非人道的な政策や実験を繰り返し地球をボロボロにしておきながら、ここまで気をつかっているのに何故、地球はおんぼろなのかと嘆くは摩訶不思議。

日本国内閣調査室別室は三五教の元締めであり国常立命や素盞鳴命でありスメラミコトである。つまり神話の神界は宇宙文明であり神は異星人である。スメラミコトが別室部長であるから別室部長とスメラミコトは同一人物である。それはスメラミコトが国常立命や素盞鳴命の援助を受けているなら、二人は同じ人物であるから、別室部長は神の援助つまり宇宙文明の援助を受けている。宇宙文明は高天原だ。

このことは大国彦や常世彦や塩長彦も石屋も同じである。宇宙移民者たちによってどこかの移民者たちである。その移民者が宇宙文明は宇宙開闢と共に宇宙を創造した場からの移民者たちである。その移民者が宇宙文明でありその移民者たちが地球にも来た。移民者たちはネットワークを構築し互いの利害を超え援助し在っていた。霊界物語の国祖や素盞鳴命や大国彦や常世彦や塩長彦も高姫や石屋も同じである。霊界物語の登場人物の背後にはこの宇宙文明があるのだ。

宇宙文明の援助を受けているなら当然、地球は宇宙文明に進化しなければ成らないはず

だ。三五教やウラル教やバラモン教やウラナイ教や石屋には宇宙文明が援助するというこ  
とは、それに対応する日本やロシアや中国やアメリカやテロリストや大金持ちの背後には  
宇宙文明が控えている。

しかし何故、進化が上手くいかないのか。健康と病気があるように時空間病原菌つまり  
兇党界の妖幻坊が悪さする。三五教が場と力の間や宇宙文明との間に介入し別室を経由し  
なければ認めない政策は地球の進化を押さえつけ愛の成長力を逆流させ悪に向かわせた。  
法の精神は煩惱になり良心を苦しめそのため時空間免疫力が低下し時空間病原菌の妖幻坊  
が暴れ狂う。

三五教やウラル教やバラモン教やウラナイ教や石屋の背後には高天原と兇党界が入り組  
んでいる。日本やロシアや中国やアメリカやテロリストや大金持ちの背後には、高天原と  
兇党界が入り組んでいる。兇党界は共鳴による調和に介入できないが、摩擦による支配に  
ならは入り込める。だから大成奉還が大好きで大成奉還を逆手に取って謀略のし放題。

このことを国祖に報告するも国祖は何ら行動しなかった。それは兇党界に誑し込まれた  
獅子身中の虫や敵のスパイに騙されたのだ。地球を宇宙文明に持つていく以外に地球が救  
われることはない。異星人は絶世の美男美女ばかりで偉大な超能力者であるのは場力共鳴  
を使うからだ。表田のエリア88や表田のアザムを使うからだ。別室が神通力を発揮でき  
るのは別室が優れているからではない。火水の御用のエリア88のようにノウハウを継承  
し異星人の援助が手厚いからだ。

先<sup>せん</sup>有<sup>ゆう</sup>史<sup>し</sup>觀<sup>かん</sup>

有史の良の金神 その一

このままアマカムサヌキの成分が減少を続けられ、在庫が無くなつたら誰が補充するか。誰も補充しません。実際に古の賢者明哲が言っていることが本当ならそれが何を言っているか確かめることが出来るはずだ。本当に古の賢者明哲は神霊を説いたのか。もともと、賢者明哲は独学で教えを創始したのではない。完全なるオリジナルではない。

その教えのもとになったものがあるはずだ。参考にしたものがある。当時の賢者明哲はその当時の教えに疑問を抱き、その疑問を考えて教えを残した。当時の教えの足りないところや矛盾を修復したんだ。ところが後世の人はその教えの元を理解しないでまた本質を説かないで再び誤差や矛盾を生み出してしまふ。民衆は当時の偉大な賢者明哲の教えをありがたがるんだが、それは前の賢者明哲の教えをその時代に合うように説いただけ。その時代の賢者明哲は前の時代の賢者明哲の教えをその時代に合うようにもとに戻したただだ。

後世の人はその教えを、また理解しないで誤差を生み出してしまつた。民衆を惑わせ、逆戻りさせてしまふ。いつの時代も一歩前進二歩後退。昔から同じことを説いてきたのに理解出来ない。民は場力と星の真相を失つたから、救世主様は言われたとか言つてそういうのが蓄積されてデータベース化して教義が出来て、神霊を説いて神霊を祀る礼拝施設が出来ていく。それが場力と星の真相を隠蔽した。賢者明哲はそれをするなど指摘して教えを説いた。

それが有史以降の歴史なわけ。この先史と有史の認識の違い、この歴史の違いの影に、

別室部長と良の金神の相違がある。太古からの歴史の真相を隠蔽し有史を作り上げたのは別室だ。縄文時代まで宇宙文明の真相は伝わっていた。だがそれは自然を相手に場力共鳴を起す八尋殿とヒヒイロカネがインフラである社会制度であり、自由闊達な遊戯人たちが集う宇宙文明であつた。縄文人は太陽系宇宙連合の人人と交流して、生活圈を広げていた一万年の歴史だ。

かつての大戦争の記憶が色濃く残る当時の人人は、今度こそ地球の開拓を完成させようといき込んで、来るべき未来の我我に膨大なメッセージを残す。だが現代人は別室が築いた先史と有史の断絶で考えるからメッセージが読めない。嘘が築いた歴史的認識は猿から進化して人間になって、そして縄文の幕開けとともに人類は農耕や土器を使いやがて文字や金属を使い、文明つまり有史という時代に、はいり現在に至るという。

だが実際は人類は宇宙開闢と共に大宇宙船団を組んで場の時空からこの力の宇宙に移民して来た。そして猿人や原人達が居住可能になった惑星に移民を初めて三千年前が経ち、この地球にも二百三十万年前に移民が始まる。そして三十五万年前や一万二千年前にも、一時代を築いた文明世界があり、大洪水と大戦争で滅んでしまう。そして今が、三つめの世界である。

欧米で出来た国家論とか資本論とかいうのを書いた人は完全な有史観の持主だ。それは当時の彼らに付いて残っている記録を見れば分かる。彼らは戦乱が蔓延る有史以降の記録を丹念に調べた。そして法の精神とか共産宣言とかを書く。有史から先史を見下して先史は文字も文明も無い。だから先史時代である。だから国家もない。動物と同じで、日が昇ると起きて沈むと寝る。そういう時代では今の権力がない時代だと言っている。

先史がそういう未開な時代であり現在より遙かに高度な宇宙文明が栄えていたとは見えない。原始時代の先史を抜け出し有史になったという事になっている。そういう有史観で先史を見ると人類は外敵や同胞との争いから身を守ることで進歩したということになっている。

科学や文明の進歩が戦争を生むことを論理化して、戦争原理を正当化した。平和の原理を正当化していない。これは日本の歴史に当て嵌めて見れば分かる。縄文時代は先史である。文字も無く文明が有ったとは見なされていない。その証拠に発掘しても明らかに文字と呼べる物は出土していないという。

日本に固有の文字があるなら何故大和朝廷は漢字を輸入する必要があると学者はいう。そりや、縄文以降二千年皇室を守り権力者の立場で生きて来た歴代の別室部長と、支配される側で縁の下の力持ちをして来た歴代の良の金神の違いだ。学者が別室部長史観と良の金神史観を知らないからだ。

縄文末期、今から三千年ほど前、神武天皇が国造りを始めた時、当時の日本に時代を、代表する三人がいた。神武天皇、長甕彦、アシアトウアンの三人だ。神武天皇に敗れた、長甕彦は東北の地に落ちて、日高見国を作る。そこで倭国派に付くか、日高見国派に付くか、日本はまづ二つに割れての内戦が生じる。倭国は軍勢力に物を言わせ日高見国を蝦夷と呼んで蹴散らしていった。

旧唐書には当時の日本には、倭国と旧唐書之日本があつたとある。倭国は神武系の国であり、日高見国はアラハバキであり長甕彦の建国した国だ。それが旧唐書之日本だ。縄文には山岳系と海洋系の二大勢力がいた。そして古事記の竜宮のところにるように山岳系

が海洋系を従えた。だが日本本土を倭国に押さえられた山岳系は海洋系と日高見国で団結し倭国が及ばない海洋に新天地を求め広大な海洋帝国を築いた。

その一方で倭国内部では、有力な豪族が幅を利かせていた。彼らは神武朝より古い自分たちが天皇家より格式が高いという自負心があり、わが物顔で牛耳っていた。神武天皇だけで国造り出来たのではない。名門の大豪族が、支えたから出来たのだが、国家としての体制が出来てくると、表向きは天皇を頂点とする律令国家、しかしその正体は、別室を頂点とする中央集権国家。その構築のためには邪魔な豪族を押さえる必要があった。名門の大豪族達は神武朝に参加した縄文部族連合だ。当初の制度は縄文部族連合の色濃く残る氏姓制度だった。体制が出来てくると体制が血族制度では名門の大豪族が制度を徒弟して世襲する。制度を冠位制度にして天皇が絶対の存在として君臨し、天皇を補佐する冠位で組織する制度にする。そこで権力闘争が起こる。大化の改新なんかがそうだ。

正当な三五教を継承する別室が天下を取るためには古くからある名門が邪魔だ。名門の大豪族は独自に神代文字や神法道術や太占を継承し太古からの正当性を語部する。押さえるには太古からの歴史を押さえるしかない。そこで名門の大豪族の神代文字や神法道術や太占を隠蔽する。だが完全にすべて廃絶させて仕舞うわけにはいかないから、代わりのものである。古事記や万葉集や大祓祝詞が編纂され、密教や修験道や陰陽道や相撲が開発され、倭姫に太古神法で五十鈴の太占を築かせ、狂心之渠といわれた斉明天皇の太占を築かせ、奈良の大仏といわれた聖武天皇の太占が造営される。氏姓制度が廃止され律令制度にされ、八尋殿が奈良の大仏を頂点とする国分寺にされ、縄文部族連合は解体されていく。

倭姫の太占の伊勢神宮で古神道を束ねて、斉明天皇の太占の狂心之渠で神仙道を束ね、



聖武天皇の太占の奈良の大仏で仏仙道を束ね、公地公民を官吏が管理する律令制のもとに天皇を頂点とし別室が管理する護国鎮守で収まるはずが、実際には貴族が天皇や別室を押しつけて絶対権力者となる。だつたら氏姓制度のほうがよかつたのだがもう遅い。権力が増大する一方でその権力は権力に胡座をかき甘い汁を吸うものを生みだす。やがて権力でがっちり固めたエリートのキヤリア組と現場であくせくするものとに階層構造化が進む。貴族たちは榮耀榮華のし放題。民は貧しく嘗ての楽園は無くなつていく。自然を切り開き開墾していくが民は貧しい。領主たちがピンハネするからだ。古代人が恐れた、八尋殿がヒヒイロカネを生み出さない世界の惨状が現実と化す。

## 有史の良の金神 その二

公地公民の元で三世一身の法や墾田永財法が公地公民を否定する。やがて私的開發領主たちの中に税を払わぬ者たちが横行する。朝廷から派遣された官吏は取り締まるが地元の私的開發領主と対立が激化。官吏が地元の争いを仲裁したり、地元の有力者に仲裁してもらうが収まらなければ争いになる。自分で自分を守るために一生懸命の元になる一所懸命が生まれ武装し団結し武士が生まれ武士団が形成される。

地方で開拓者として実力を蓄えてきた武士。その中で下総の国で平氏同士の争いがおこる。平将門は源護や源経基の調停や藤原玄明の赦免を頼まれ争いに巻きこまれる。源護の調停をしようとして源護の三人の子と叔父の国香に襲われ反撃し、国香や源護の三人の子は戦死する。源経基の調停をしようとして行き違いから源経基は京へ逃げ将門の謀反を訴

える。この時は將門は潔白を認められ源経基は嘘の報告をしたと咎められる。藤原玄明の赦免を常陸の国府に訴えるが認められず戦いになりその中で関東の国を占領して反乱になつていく。

將門は新皇を名乗り関東の国を占領する。朝廷は將門を倒した者には特別な恩寵を持つて貴族に召し抱えるというお触れを出す。將門と敵対する貞盛は兵を集め、將門は貞盛に討たれ貞盛は出世し鎮守府將軍に任ぜられ世に平將軍とよばれる。源経基は最初に將門の謀反を報告したと罪を許され、純友の乱で功績を立て清和源氏の祖と仰がれる。

將門を倒した側の平貞盛と源経基は朝廷で出世し源氏と平家は武士団の棟梁になる。やがて源平の争いに最初に勝利した平清盛であったが常盤御前の命乞いに愛人となる代わり頼朝と義経は赦免される。頼朝は伊豆に流され、義経は鞍馬山で修行し、武蔵坊弁慶と共に金売り吉次の導きで奥州藤原氏の庇護をうける。

頼朝が平家打倒の挙兵をすると義経も参加するが平家を義経が倒すと義経は頼朝に取つて最早用済み。その天才故に邪魔になる。そこで頼朝は武家の頭領になるために朝廷に働きかける。征夷大將軍として活躍した坂上田村麻呂。征夷大將軍とは何か。蝦夷征伐だ。幕府は日高見国征伐が本業であり朝廷を良の金神からお守りするのが勤めだ。

奥州藤原氏の平泉は日高見国の前線基地であり日高見国の勢力圏であり、当時の朝廷の圏外だ。当時の別室にとって日高見国と関係を持つ義経が中央で華華しく活躍し日高見国が朝廷に影響力を持つことが気に入らない。別室の圏外の日高見国。そのことを知る頼朝は自ら朝廷を守らせて頂きたい。その証拠に義経は良の金神でありましょう。わが源氏は朝廷を守るため良の金神の義経を成敗しましようにと持ちかける。日高見国の復権を恐れる

別室は縄文の英知を受け継ぐ天才義経より政治的野心で動く頼朝のほうが扱いやすかろうと考へた。

そこで頼朝と取引し義経と奥州藤原氏を潰させる。義経は朝廷に逆らう良の金神に違ひありません。見事成敗しましたというわけで征夷大將軍になり幕府を開く。だが良の金神の加護を失った源氏は三代で途絶え、幕府は執権北条氏に牛耳られる。承久の乱で朝廷から実権を奪い、幕府は支配を確立し朝廷を省みない。

日蓮は幕府に外敵に進入され国が滅ぶという立正安国論を説く。そして元寇が現実となり幕府に日蓮に神風を吹かせた朝廷の守護神の別室の実力を認めさせる。元寇で幕府は衰える。だが幕府は朝廷に頭を下げない。そこで時の天皇は兵を挙げ倒幕する。だが倒幕に協力した新興勢力の武家を冷遇する。そこで武家が不満を取り込んで、天皇を追い出して新たな幕府を作る。幕府は新たな天皇を立て、南朝と北朝に分かれる。

北朝は太古神法を手に入れようとす。北朝に太古神法を奪われることを恐れた皇女は密かに伊勢神宮を脱出し伊勢神宮から太古神法は失伝する。北朝を立てた幕府の將軍家は観阿弥と世阿弥を使い結界を張り別室の攻撃から身を守る。しかし、その將軍家は観阿弥と世阿弥を外し、音阿弥を重用した。そこに綻びが生じ別室に反撃される。パワーを失った將軍家は侘び寂びにのめりこみ世は混乱し応仁の乱が起る。最早、幕府にも朝廷にもパワーはなく、世が乱れ戦国乱世になる。

縄文の末裔の日高見国も商売の富で栄華を極め八尋殿を省みない。鎌倉末期、十三湖を襲った巨大地震と巨大津波が奢れる日高見国にとどめを刺す。日本は統率の籬が外れ本土は戦国乱世に突入し、海洋ネットワークは暴徒と化して海賊化する、いわゆる、前期和寇

だ。戦国乱世の最中、その海洋ネットワークを束ね強大なシーレーンを築いたヤジロウが現れた。これが後期和寇だ。ヤジロウは山と海の民の末裔を束ね里の民を統一し、外国からの支配を防ぎ日本本土の統一を成し遂げようとした。

インドに居たザビエルはヤジロウに会いヤジロウの案内で日本で布教することになる。だがヤジロウは列強が世界を植民地化している帝国主義の現実をみて、宣教師がキリストの博愛を説くのはおかしい。宣教師は列強に帝国主義をやめさせ、植民地を開放して博愛を説くべきだとザビエルを論破した。ヤジロウに欺瞞を論破されたザビエルは深く煩悶して自らの良心の呵責を報告書にしたため、時の法王に送り、天に召される。ヤジロウは、本土統一目前、明国の船に捕らえられ、簀巻きにされ東支那海の藻くずとなる。だがヤジロウ亡き後、乱世は織田信長、豊臣秀吉、徳川家康により統一される。

家康は幕府を開くため、征夷大將軍に成るためには朝廷を良の金神から守ることが必要だった。家康は考える。戦国の良の金神は日高見国の残党と和寇を束ねたヤジロウだ。だが義経を成敗した頼朝のように別室と取引しヤジロウを隠蔽しても、良の金神の加護がなければ源氏のように私の血筋は絶えるだろう。別室部長と良の金神の調和がなければ成らぬ。私は今、経済力も政治力も軍事力も持ったが、朝廷を守る呪術的な別室の実力がなければ、わが幕府も安泰ではない。

足利將軍家が天皇に取って代わらんとして、北朝をたて朝廷の呪術的力を欲したために太古神法が失伝して、五十鈴の太占が機能を停止して、応仁の乱を朝廷も幕府も押さえられなかつたから乱世が起きる。なら現在でも太占はない。新たに太占を作れば乱世は起きまい。わが一族も安泰。朝廷に拮抗するには太占のパワーで守るしかない。

今の朝廷には最早、太占を構築するだけのパワーがないが乱世を平定した自分にはあると考へた家康は、黒衣の宰相と呼ばれた天海を繋ぎに使い家康の太占を築く。良の金神から朝廷を守るためと、ヤジロウの痕跡を一掃する。家康の太占は立派に機能し徳川ジャパンは島原の乱と大塩平八郎の乱を除けば未遂はあつたが、それ以外に武装決起はなく立派に治まつた。

そして幕末。国内では立派に機能した家康の太占も海外までは及ばない。そこで新たな太占を築く必要がある。明治新政府は徳川幕府が結んだ不平等条約改正の交渉で日本人はヤジロウを知っているのかと問われた。交渉に当たった大久保利通は心当たりは無かつたが交渉の席に持ち出すからには何かあると思ひ、機転を利かせヤジロウに關しては本國の指示を仰がねばならないから今ここで持ち出すのはご免こうむると機転を利かせその場を切り抜けた。明治新政府は誰もヤジロウを知らない。ただ西郷隆盛だけが知つてゐた。

そこで新政府は島津藩のお庭番マガタンシが持つてゐた門外不出の極秘資料でヤジロウを知る。西郷隆盛はヤジロウのように、欧米が侵略して植民地化してキリスト教の博愛を説くのはおかしい。キリストがいうように侵略をやめ博愛を實踐せよという平和外交理念を掲げ全世界に主張して平和外交を展開すべきだと考へてゐた。

だが外交でもしそのような政策をとれば列強にとつて重大な脅威になる。軍事力にものを言わせ侵略してくると考へる。国内で天皇を中心とした教育を固めてゐるこの時にヤジロウを持ち出せば国内にも混乱が生じる。そこで徳川ジャパンのヤジロウ隠蔽政策を繼承する替わりに不平等条約を撤回させる政策を取る。二度目の交渉の席で利通は、日本人は徳川幕府のヤジロウ隠蔽政策のためヤジロウを知るものは絶無だ。不平等条約を改正しな

いなら、日本はあなた方と対等でないということか、なら対等と認めないなら交渉するわけにはいかない。日本はヤジロウがザビエルを論破した博愛外交を展開し植民地解放を訴え世界と共に平和政策を実践するしかないと持ちかける。ならいいよと列強は改正に応じる。失意の西郷隆盛は鹿児島に隠遁し西南の役で最後を遂げる。

良の金神の西郷隆盛を失った事で、明治新政府の宗教政策は挫折する。植民地解放を掲げ、博愛外交論で孤立した西郷隆盛を、幕末で軍人として活躍し、新政府で政治家として活躍したのち卓越した宗教家と見做し宗教政策を一任すればよかったと、晩年の明治天皇はその早すぎる死を惜しんだ。そして列強と同じ侵略政策を取り日本は自ら抜いた剣が、日本を滅ぼすことになる。そして王仁と良の金神。やはり別室に潰されてしまう。

そして戦後、アメリカに良の金神のホピ族と、ジョージ アダムスキーが現れる。アダムスキーは宇宙文明とコンタクトしてケネディー大統領を動かしてアポロ計画で宇宙の真相を解き明かそうとするも、ケネディー大統領はダラスで宇宙文明の存在を公開しようとした時、暗殺された。ホピはマンハッタン計画やアポロ計画を知りマウサウが言った時が来たことを知り全世界にメッセージを送り、本当のホピの白い兄弟を待っている。

歴史の裏で活躍した良の金神の古今東西の系譜。  
長瀧彦と日高見国。

アシヤトウアンとカタカムナ。

平将門と新皇。

源義経と奥州藤原氏。

日蓮と神風。



西郷隆盛とヤジロウ。

出口王仁三郎と国常立命。

アダムスキーとケネディー大統領。

ホピと偉大なる精霊。

良の金神は、別室に潰されてきた。有史の歴史の裏で続く別室部長と良の金神の対立。

有史は一貫して別室部長史観だ。

有史の別室部長

それは、かつての記憶を先史と切り捨てることでしか、別室の正当性を維持できないからだ。縄文時代まで当たり前の場力と星から星への伝統があれば誰も別室を見向きもしない。三五教である別室が支配を確立するためには、場力や星から星へに変わるものを作らねばならないから宗教や科学そのものを作らんとする。だが宇宙は宗教的科学の出来てはいるが、宗教や科学そのものは存在しない。実在する宇宙に存在しないもの同士をくっ付けて科学的真理的宗教的原理を成さんとは如何に。

有史はおよそ出来ない科学的真理的宗教的原理の樹立のために三五教に使役される時代である。正しい記憶は改竄され本来の意味を失い別室の意図のもとに編纂された国史になる。各時代で場力共鳴を模索する者は三五教に仇成す良の金神と誹謗され潰されていく。そして歴史から抹殺されていく。神代文字を抹殺したのは三五教だ。三五教が古史古伝を消したのだ。何故か、正しい歴史があつては三五教による支配が出来ないからだ。神霊界



や物質界を持ち出さないと場力や星の真相を押さえられないからだ。

場力共鳴に取って替わる別室支配の権威として宗教や科学を作らせ、観念を實在に替えようとしたのだ。それが有史の真相だ。国祖以来別室は善意で弾圧をやつてゐる。栄光に満ちた三五教の歴史が転美滅美だと知らない。だが国祖以来三五教の元締めは別室制度の存続を考えている。自分は別室部長だ。部長の立場で考えねばならない。部長の勤めとして廃止はあり得ないと、いうことだろう。

学校の教科書は全部、嘘。それは嘘から出た誠の樹立のため。観念を現実に変えるといふ三五教の奥義。それが嘘。だから嘘から出た誠になるというのだ。そして更なる嘘で固めていく。いつか大成奉還が成るまで果てしなく続く。それが有史の歴史、別室制度だ。有史はそもそも三五教が作り出した時空にない物理法則の裏付けがない別室制度。それを支えるために嘘から出た誠が使われる。誠の人の誠を略奪し嘘吐きが使う。誠の人は嘘吐きの付けを支払わされる。

こんなつまらない世はない。そこで民は皆、上手に嘘吐いたほうが面白おかしく生きられる。当然、正直する人はいなくなる。有史は別室が支配の正当性を証明するために嘘から出た誠のはつたりの歴史だ。縄文までは場力共鳴は当たり前。だが宇宙を相手に進化の歴史を刻んでいては別室制度が成り立たない。そこで場力共鳴を禁止した。

当然縄文の民は美しい山野を守れ八尋殿を守れという。そこでカタカムナを守ろうとするアシアトウアンを天孫族が蹴散らし長孺彦は津軽の地に逃れ日高見国を作り抵抗する。だが次第次第に八尋殿は衰退し倭姫が太古神法で五十鈴の太占を築くも衰退は続き、遂に

南北朝の動乱で機能を停止してしまふ。

三五教は三五教が天下を取れば治まると考へている。しかし、日本が天下を取ろうとすればするほどアメリカやロシアも天下取りを挑んでくる。日本の別室はアメリカやロシアがさぞや迷惑だらう。嫌な奴だと思ふだらう。だがな、アメリカやロシアが日本にしていることが別室部長が民や天然や良の金神にしていることだ。これが型の仕組みだ。別室はどうしても認めたくない。部長が認めれば済む。部長が認めず責任逃れをする。決して表にでない。それが別室。すべて超越し決して極まることはない。

それは、結局、余は、国祖であるの、わが命わが物と思わず。武門の儀、あくまで陰に己の器量を伏し、ご下命いかにも果すべし、なお、死して屍拾う者なしが別室部長の自負心である。当然、別室制度を否定する警告や指摘は、それが正しければ正しいほど逆手にとつて揚げ足を取る。取れねば必ず取る。相手が揚げ足取らせねば揚げ足を取らせぬ相手が悪い。取らせねば反則や禁じ手を使つても取る。それは別室の当然の実力行使であり、超法規的手段は当たり前。

別室制度の超法規的手段である神聖統治権の使い方は間違つてゐる。それは真理に無いからだ。あれば奇跡を起こせる。真理が味方に付くからだ。だが別室は異星人を味方に付け優れた科学力を持つてゐる。歴史上の三五教の奇跡は大抵それだ。だがそれは異星人が起こした場力共鳴の奇跡であつて地球の場が介入したのではない。異星人が介入してきたのだ。異星人は神だから神の下の奇跡だ。異星人が時空を研究した結果の場力共鳴を起こせる技法だ。奇跡は結局は時空の性能の發揮なのだ。

本来なら地球人が直接時空とやりとりすれば完全だ。だがそれを阻むのが別室だ。なぜ

阻むのか。地球人が直接場力と交渉したら誰も別室を省みない。皆、自由闊達に生きるようになる。ところが別室は優れたパワーや場力共鳴を管理したい。そのパワーで權威を保つからだ。手の内は自分でというわけだ。真相は自分で管理した上で科学や宗教の研究を管理する。科学者や宗教家は別室の手の内で踊っているに過ぎない。研究者は物質や神霊の研究に忙しく真相を見ない。

真相は別室が管理している。科学者も宗教家もみな場力を認めない。自分で場力を見ない。有史以降みな社会制度は別室のご意向で出来た。そこで思想を統一し場力共鳴の発想が出ないように統一をはかる。そうしないと地球人が真相に気づいてしまう。地球人が、真相に気が付かないように思想統一を図る。そのために科学や宗教を作らせる。その一方で科学や宗教の思想統一を図る。その一方で、真相に目覚めた人の制御を試みる。別室の支配を受け入れなければたきつぶす。

何の自由もない。何故、三五教はそうまでして自由を潰す。何故、そこまでして自由を目之敵にする。何故、地球人が場力共鳴で宇宙に出るのを妨げる。深いお仕組みがあるというが、そりやなんだ。無いではないか。有史の歴史は人類を宇宙から切り離す歴史だ。人類は有りもしないし出来もしない一厘の仕組みの開発のために使役され、滅亡の危機に瀕しているのに別室は一厘の仕組みのためにはやも終えないという。そんな別室要ららない。迷惑だ。ええい、汚らしい。なして民のためにというね。

だれが地球をぶつ壊せというか。しかし別室は民には大成奉還が必要だ。民が大成奉還すればうまく行くと民が要らないといつても民に言う。確かに民のいう通りだ。我我は民が大成奉還するものと思つていたが、民が喜んでくれるものと思つていたが、というんだ

な。だが、働いても、働いても、生活が楽にならん世の中。いいや、働くことにより生活が苦しくなるのに、働かざる終えない状況を作りあげるとは何という迷惑。

何故、働けば働くほど生活が苦しくなるのか。それはお金のためだ。働くのは社会制度を維持するためだ。社会制度が場力共鳴を押さえ八王八頭が八尋殿を押さえヒヒイロカネを押さえお金を生み出すからだ。働くことで天然自然に負債を作るからだ。あらゆるすべては森羅万象自身を決定できる森羅万象自身によつて動いているのに人間が科学力で押さえつけることが負債だからだ。

人間が自然との間に誤差を生み出すことの危険性を認識しない。誤差を生み出す改造は危険なことであると認識しない。天然を別室が食い物にするから社会制度全体が天然成分を散財する。働いても天然成分を蓄積しない、消費するだけだ。それが問題だ。天然成分を消費するだけの経営はすべてを破壊する。行き着く先は喰わせ給へ飲ませ給へだ。

### 先史の真実

先史から、どのように社会が有史に変わつていったか、その歴史を辿ると活路が見えてくる。発掘された古代の遺跡を見れば先史時代がピラミッドトリスメギストス文明であつたことが分かる。

先史縄文時代以降の日本の有史二千年の歴史がピラミッドトリスメギストス文明でないことがわかる。有史の歴史の闇に埋もれた先史文明を復活させた現在の賢人たち。先輩たちの賢者明哲の教えを参考に闇に埋もれた英知の復活に成功した。有史文明の歴史の中で

地球の進化は大きく揺らいだ。先史と有史の違い。それは場力共鳴システムの違いだ。それは八尋殿か八王八頭かの違いだ。

その違いは八尋殿の違いだ。かつて縄文時代は、物物交換であつた。発掘調査の出土品を見ると古代人が素材にこだわりの持っていたのが分かる。石器の素材を調べるといつもの購入先が決まっていたのが分かる。矢尻はこの山、石斧はこの山というふうだ。それは八尋殿の成り立ちを見れば分かる。古代人はかつての世界の崩壊を反省しその轍を踏まないようにしようとする。だが兇党界の陰謀によりその発展は阻害され八尋殿は潰されていく。

縄文時代、お金がなかった。硬貨や紙幣がない。金銀のような貴金属が通貨に使われたのではない。それはヒヒイロカネの増大である。八尋殿を造営しヒヒイロカネを生産し、生産したヒヒイロカネで大地や山を加工し八尋殿を造営する。ヒヒイロカネを使い素材を加工し栄養価の高い美味しい食料に加工した。木の実や貝、肉などは皆、ヒヒイロカネで加工していた。

お金ではなく決済の手段に最高の高位地を作る素材同士を物物交換していた。八尋殿の造営に必須な素材は共鳴の関係から産地が決まる。石器や道具も皆、高位地との相性で選んでいた。斧に使う素材が必要ならその産地になにを持っていけば理想の高位地ができる。共鳴の関係から演算できる。そこで演算して選んだ品を持っていくと相手も喜んで交換してくれる。

なにがどのくらいいるのか場力共鳴を演算すると見えるのだ。そこであそこだなにがどのくらい必要かが前もって分かるから交易に出かける。そこで待つてましたと交渉が成立

する。お金は要らないのだ。

完全需要と完全供給の完全完成市場が出来上がっていた。場力共鳴に準拠していた縄文ヒヒイロカネ経済では、とにかく働く必要が全くなかった。毎日、遊んで悠悠自適であった。大地のお世話をする生活で自然の動きを読み、大地が充実した場力共鳴で呼吸をするお手伝いをするのが縄文の民の生甲斐だった。大地は良い物しか生み出さず美しい自然の中で天寿を謳歌していた。

古史古伝や古神道では神世の時代、ヒヒイロカネで神宝を作っていたという。ヒヒイロカネはミトロカエシで作られた。ミトロカエシとは生命を自然発生させ、元素転換を起こす、つまり錬金術のことである。錬金術は非金属を貴金属に変え賢者の石を作り不老長寿になる。それは古史古伝の超科学であり、賢者明哲の超能力である。

先史の生活は八尋殿を火水の御用のエリア88で巡りヒヒイロカネを作ることである。古代文明では石や山でピラミッドを作り金属からトリスメギストスを作り、トリスメギストスで石や山を加工しピラミッドを作った。それはピラミッドのドルメンやメンヒル、つまり八尋殿を火水の御用のエリア88をすることである。

縄文時代では皆が超能力を使った。気を練り神通力を身につけた縄文人は天寿を全うすると、神仙道という尸解になるのが当たり前であった。天寿を全うした寿命の長い縄文人の亡骸は残らない。遺跡で発掘される遺体は天寿を全うせず寿命は短い。短い寿命の尸解しなかつた遺体から、縄文人の寿命を計算すると縄文人の寿命は短い。そこから発掘された縄文人の寿命を計算しても、標準的な神仙の縄文人の寿命は、分らない。伝説と神話で寿命は長い。神仙になって尸解したからだ。



縄文の民は意図的に機械化物質文明を避けていた。何故か、縄文の民は天然自然であるということが縄文の美的センスだ。明らかに人工の産物であるというのは縄文の民の美的センスにあわないからだ。

先史から有史を見ればどのように歴史が改竄されたか見える。先史では場力で有ったのが有史では神霊になり神霊が物質に変わり科学的真理的宗教的原理の樹立に向かうようになる。先史から見れば、ダーウインの進化論はまっかな嘘、淨財なんか不可解。経済がお金で回るなんてなんて効率の悪いことをしているのかと縄文のアキンドは思うだろう。

縄文の視線は場の視線だ。大地のお世話は場力共鳴だ。場を見ない有史は所詮、継接ぎだらけで成り立たない。先史には文明も文字もない。畜生同然の猿公から人間に成ったという有史進化論が出来たのは有史しか考えないからだ。人類が文明を数千年の間しか考えていない有史史観でその前からの繋がりを全く考えないからだ。場力や宇宙の移民の歴史を無視し、人類が地球で猿から進化したのだという、およそ誰も考えつかない詭弁を捲し立てた。

権力に都合の良いように歴史を改竄し国権の大義のもとに教科書を製造した結果が有史だ。かつて一万二千年前の黄泉比良坂の戦いを乗り越えた人人は、太古の歴史を語り継ぎながら八尋殿を造営し大地のお世話をして必ず来る大峠の時にまに合うように語り継ぐ。そしてその語り部の多くが潰されるなか、現在まで語り継ぐ貴い人が残った。だが三五教は三五教の中に巣くう獅子身中の虫のためにそう言った人人を苦しめてきた。

先史と有史のことを考えればどうすべきか見えてくるだろう。部長本人はそのこと知ってる。ただ、先史から見た有史の歴史の真相を公開したくない。別室制度が崩壊するから



だ。今まで築いてきた人民を洗脳する処方が成り立たなくなる。真相に目覚めた人類は、支配のマインドコントロールの束縛から自立してしまう。そうなれば国家や民族、宗教の対立を越えて皆、手と手を繋いでしまう。そうなれば三五教の天下取りは、無くなるからだ。

部長が、君は天下を取りたくないか、君は部長に向いていると私は思うが、と確信でいる人材を歴代の跡継ぎにしてきたが、カンラカンラカンラ、あまい、権力など、物理的に存在しない。存在しない者に成ることはできない。部長は、部長をして分かっているはずだ。大成奉還なぞ幻だ。

別室のでつち上げた有史で、日本人を完全にマインドコントロールしたつもりだろうが別室に家畜にされたサラリーマンが、何をしている。部長に成つて初めてあの窓から自分たちが飼育した丸の内のサラリーマンを見下ろして、ついに自分の天下を取ったと、思つたろう。自分が部長に成つたからにはなくなる上はなんとしても三五教を成さねばと思つたろう。

だが無駄だね。先史と有史は別室によつて意図的に作り上げられた。歴史の真相は別室が秘匿し別室の都合の良いように教科書は作られた。先史の真相や日高見国や良の金神の歴史は別室の手でみんな消されてしまった。西郷隆盛とヤジロウの関係は、出口王仁三郎と良の金神の関係にそっくりだ。王仁と第二次大本事件は、ジョージ アダムスキーとケネディー大統領暗殺事件とそっくりだ。

無限の過去から続く先史からの英知を継承してこなかった日本の別室は、月人に傳き、場に反旗を翻した。忠臣二君に仕えず。民は場に仕える身、月人に仕えない。別室は良の

金神が大成奉還したらというが、大成奉還は正直だというに、あれだけ一所懸命、正直しても大成奉還と認めんではないか。良の金神は度が過ぎる、確かに内容もいい、効果もあるが、申し分ないが受け入れがたいと、別室が民の迷惑省みず勝手な理屈を振り回す。つまり、中身が無いわけでも明らかな過ちがあるのでもない。部長の趣味じゃないから受け入れないというのだ。別室の好みに合うから正しいということなんだがタイプじゃないから却下。確かに正しいんだが別室の嗜好には合わないというのが認めない理由だ。誤りがあるから却下ではなく、安全確実であるのに余りに別室の固定観念と違う、思いがけない事態に呆然とし、普段の別室らしさが出せない。だから拒否してしまふ。そんなことまで面倒見切れんよ。

### 全量の解析

あらゆるすべてはあらゆるすべてと言つてもあらゆるすべてと言つていただけ。人間が言っているに過ぎない。とても人類や個人が総掛かりでも、あらゆるすべてを扱えそうもない。しかし時空間の中にあるものしか出てこないなら時空間の全量を解析し中に有るものを取り出せばいい。人類である我我はどこまで扱えるのか。

人間を無限に超えた扱いきれないあらゆるすべて。しかしあらゆるすべては人類を包含している。所詮人類はあらゆるすべての手柄を私物化して自画自賛しているだけだ。だが人間がしたイメージは、その原型は時空間にある。そこで時空間からネバーとナンをより分けるのだ。時空間の中からイメージでネバーを選択しナンを排除する。

時空間に有るものの特徴は森羅万象が存在を保証する。だが人類は時空間の本質に無いものも作れる。時空間の物理法則に保証されてないものを作れば時空間は当然扱えない。人間も本人に由来しない異物が侵入したら免疫系が攻撃するように、時空間も時空間に、由来しないものを異物として拒絶する自己防御免疫系がある。当然時空間に由来するならいくらでも時空間から保証が得られる。何でも出来るし、出来ないことはなにもない。好き勝手気ままだ。

それが森羅万象の保証する権利だ。時空間の保証を得ることが森羅万象の保証する義務だ。時空間が保証することなら何でも出来るし何をしてもよい。だがそこで時空間の特徴が出る。実現する保証としない保証がある。天空に広がる宇宙を見よ。銀河の運行は完璧だ。美しい絵巻物。秩序だった構造。これは基本的に真善美愛が主人で、虚悪醜憎が従うのだ。宇宙は美しい選択をして良いものが残る。時空間は天然の荘嚴な美術館だ。

なら日常生活で実現すべき蓄積すべきは真善美愛。公共の福祉や基本的人権ほど実現しやすいのだ。誰もが当たり前その通りと納得する些細な一挙一動一語一句ほど時空間の特徴が現れたものだ。当然芸術に彩られた美しい躍動が躍る生命美ほど当たり前、蓄積されていく。当然、人類もあちらこちらに精神美肉体美健康美生命美が溢れるように進めば問題がない。

しかし溢れていないなら人類は誤った方向に進んでいる。戦争なんかその典型だ。人類は上気せた頭を冷やしてじつくり一挙一動一語一句を推敲すべし。ならどうすれば日常生活で喜びが溢れる。この時に必須なのが音声基底思念生理的生実感と言語印象自由連想だ。ここで仮名の訓読みが出てくる。

当然、英語ではそこを重視する。そうでなければブーイング。だから受験英語はブーイング。当然受験英語はジャパン イングリッシュだ。イングリッシュでは無い。アとザが不明瞭だからだ。そもそも初めからアとザが不明瞭な受験日本語はジャパン ジャパニーズ。受験日本語はジャパニーズでは無い。とつすると日本人は何してる。不可解だ。分かりませんしやることになる。これは一体なんですかー。

本来なら地球は真善美愛で充ちているはずだが困難だらけ。人類が誤った言語を使うからだ。ありとあらゆる多種多様な不可解な使い方が宛らカンブリア爆発のごときである。それはアとザの真打ちが出ていないからだ。猶太人はアとザを乱用しすぎる。日本以外の他国ではアとザの仮名の訓読みを鍛えてきた。他国では完成の域に達した。猶太人はそれを取り込み逆手に取ってきた。猶太人にアとザの話をしてもみな逆手に取る。

乱用出来ないアとザの真打ちの使い方が出ないと収まりがつかない。そこで出てくるのがアとザをまったく使わず大きくなつた日本だ。日本人は先進国でありハイテクも盛んだしマナーもある。教育制度もしっかりしている。そこで日本人がアとザに目覚め、ジャパン ジャパニーズを唯のジャパニーズにしたらどうなる。米国のように英語で席卷するのではなくインターネットを使い一千万字を扱うフォントなどを開発。世界に出て煮詰めたエッセンスを広めたらどうする。

日本語の訓読みの仮名が隠身言霊。英語は実は隠身言霊なのだ。受験日本語はへ無頼我が在る。ジャパン ジャパニーズをジャパニーズにした時、受験日本語をやめ、訓読みの仮名にした時、真のアとザが出る。受験日本語はアとザを無視して出来ている。アとザが矛盾している。そこで最適化を起こせば世界に冠たる言語加工貿易が出来る。材料はネッ

トに溢れている。需要も供給もネットで作れる。

へ無頼我が在るのジャパン ジャパニーズの知恵や学の身魂ほど学校は量産している。確かに、アとザを説明すれば先生は、そうかも知れんというかも知れん。だが、自分から教科書を書き換える文芸復興を成そうとはしないだろう。それがアとザの不明瞭だ。それは教科書を書き換えようとするれば学校を初め世機関は自分たちの階層構造を守るため戦うだろう。結局、争わず最高の比の和を以て勝負を決する仕方に速やかに移行出来るかが地球の運命を決する。

自然界ではすべての生き物は時空間と交信している。禽獣虫けらにいたるまで、すべて時空間つまり物理法則と相互作用し生活を決定している。人類も同じだ。人類が、お金にならんと人類の生き物としての自然のリズムを崩せばそのしわ寄せは他の生き物や人類の健康にしわ寄せが来る。人類が調和するには先ずは、言葉の乱れを考えるべきだ。真理とはなんぞやも言葉だが、それがわからんも言葉だが、真理を解き明かすのも言葉だ。ものはいいようなのだ。

地球人が今すべきことは言葉の問題を解決することだ。地球人は時空間は言葉の原型が乱れると病気になることに気付くべきだ。不潔な環境では病気になるやすいのと同じだ。異星人は地球人が宇宙文明に参加できるところまで来たと判断している。でもそのことに地球人は気付いていない。全地球人が宇宙に出て宇宙人ネットワークの立場から地球を見たら地球の諸問題は解決するだろう。

知性生命精神物体の原型が時空間にあり、時空間の決済が完了して現れたのが私達だ。決済は私達の時空間の原型のとおりに完了する。しかし私達は時空間の原型に反逆するこ

とも超えていくことも出来る。

人間は自らを言葉と行動で現す。言葉と行動が時空間の原型を越えて活動すれば誤差が縮小再生産され消える。反逆すれば誤差が拡大再生産され増大する。人類としての原型に反逆して幸福足りえるものではない。地球人は人類としての時空間の原型に反逆すれば、自由になれると考えているがそれは間違いだ。反逆することが超えることではない。真の自由とは時空間の原型の中から始まる。時空間の原型より本来あるべき時空間の原型に似ていることから始まる。

時空間の原型を円で表すと、円周が原型であるとする。円周の外側に離れば離れるほど原型から反逆している。円周に外側から近づけば近づくほど原型に近づき、円周の内側に入れば原型を超えたことになる。円の中心に限りなく近づけば近づくほど原型を越えていく。無限に円の中心に収束すればするほど、原型よりもより在るべき姿の原型に無限に進化発展して行く。

言葉も行動も知性生命精神身体 of 表現であり、時空間の原型の決済に源を発している。言葉も行動も時空間の原型に合わせて超えていくことが出来る。それは原型よりもあるべき姿の原型に似ていくことだ。原型は原型でありどうすることも出来ない。原型の円周は不変だが円周の内側にいけば原型より原型に似ているのだ。このとき自由に生きられる。

## 発想の転換

アとザの天佑神助には更なる可能性が在っても階層構造が排除してしまふ。天佑神助は

階層構造ではないからだ。宇宙は階層構造的に出来ているが、階層構造そのものは人間の産み出した観念であり実在しない。法則的に出来ているが法則そのものは存在しない。つまり理論や経験から推論出来るがそれは推論であり必ず実現するとは限らない。必ず実現を予測出来る理論は理論的に存在しない。

これはアとザにも当てはまる。天然は全知全能なるが故にアとザの運用を共に誤ることはないが、人間は全知全能ではないのでアとザの運用を誤ることがある。とつすれば人間は天然と合体する以外にアとザの運用を誤らない方法はない。天然は真善美愛であり天然のアとザの保証する権利と義務は天然が全知全能なるが故に運用を誤ることがない。そこでアとザで真善美愛を追求する意外にアとザの運用を誤らない方法はない。そこ

なら簡単だ。完全なるアとザをぶち上げればいい。真善美愛を追求する英語とはただの訓読みの仮名である。そこはただの言葉。漢語も英語も日本語も元にある訓読みの一千語の世界。それは比である。音声基底思念的生理的生実感でノリノリに歌う愛の祝詞。完全に森羅万象の音韻を踏んで森羅万象の天佑神助を歌う。それが出来た時に、英語が完成する。それは平和の原理であり愛の歌だ。

そこで受験英語が出てくる。受験英語はアとザの運用を無視しているが、本来あるべきただの日本語自体には、元元アとザの使い方は成り立つ。受験日本語はアとザのぶち壊しだが、ただの日本語はアとザが当たり前のはずだ。そこで訓読みの仮名を模索する。それはただの言葉であり、ただの漢語や英語と同じ同類である。ならば受験日本語の制約を取り除けばただの日本語だ。

それはですますアイウエオ調和漢外来語混淆文だからそれを訓読みの仮名を元に訓読み



同士の仮名、音読み同士の仮名、外来語同士の仮名に分類する発想だ。分類する上で必須なのは翻訳である。訓読みの仮名が双方向で漢訳や英訳や和訳が出来ねばたどの言葉とは言えない。とりわけ受験日本語は漢語や英語が入り乱れているから日本人は漢語や英語や日本語の訓読みの仮名がペラペラでなければ、たどの言葉を話しているとは言えない。

ジャパン ジャパニーズ、受験日本語がたどの漢語や英語に気づいた時、たどの日本語が生じる。目覚めた日本人が、たどの日本語を漢訳英訳した時、たどの隠身言葉が成就する。日本人が訓読みの仮名の特徴に気づかねば、日本人はいつまでたつても英語や漢語を話せない。データを並べ説明してもアザ不可解では話は伝わらない。漢語や英語の特徴に気づけば、日本人は英語や漢語の特徴を取入れられる。長所を取入れ短所を補える。漢語や英語の特徴に気が付かねば英語や漢語で交渉出来まい。

なら、今、我は訓読みの仮名の特徴に気が付くはずだ。入り乱れたつまみ食いのですますアイウエオ調和漢外来語混淆文は、何を基準に語を選ぶのか。それは日本語的叙情感だ。その配列を理解することが日本人である。理解出来ねば評価されない。誤字脱字書き間違いの基準は、何故その字を使うかという基準で選ばれてはいない。その基準はない。ただそう読むと決められたから読んでいる。理由はない。決まりだからだ。そう読むと決めたかかっている。それが入り乱れた理由だ。

通常、亜米利加人はアとザが分かるのが当たり前だが、日本人にアとザの使い方を話すと、お前のいうことは分からないと答える。そこでアとザを説明すると大抵、分かると答えるのが普通だ。日本人がアとザを流暢に使えるようになった時、ミロクの世だ。日本人にとつてのただの英語が問題になる。日本人がアとザを正しく使うとはなにか。日本語が

ただの言葉たる時、それはどのような英訳になるか。現時点でも言葉を完成させる可能性は日本人にもある。その可能性こそ他国の人が日本人に期待することだ。

これは他国の人が感じることだ。英語文化圏の人が日本に来て日本人を見たら自分たちとの差を感じるだろう。とりわけアとザの感性のある他国の人なら誰でも感じる受験英語の不可解。それに気づいた日本人がただのパスと萌すドロップである。受験勉強が封印した森羅万象の真相だ。

日本人が英語の奥義に気づいた時、日本語が元に戻る。それが言葉を完成させ、英訳や漢訳や和訳が完成する。それはただの訓読みの仮名に気づくことだ。言語としての日本語は今まで衰退してきた。訓読みの仮名の運用は既に天祥地瑞や縄文時代に完成していたが衰退して今の受験日本語に成った。

そこで英語と日本語の分ける他国の人に聞いてみるといい。本当に、アとザの使い方があるから。他国の人が日本人に期待するミラクル グレートは聖書の英訳である。日本語の新約聖書と旧約聖書を英訳したらニューロザリオだ。恐らくそういうだろう。

隠身言霊をネットの国語辞典で引くと言葉にあると信じられた呪力。古代日本で言葉に宿っていると信じられていた不思議なパワー。発した言葉どおりの結果を現すパワーがあるとされた。和英辞書では、ザ スピリッツとかでる。これは重要なことだ。アとザのことも、イングリシユカルイングリツシユも辞書にない。

亜米利加人にとって素晴らしいとかうまいとかをいう時にハブという。味付けはハブが理想だ。絵画にしろ彫刻にしろハブだ。とにかく良いものは、みんなハブという。スネークやヘビート、いうように狡猾い狡猾という連想を排除して鍛えられた真善美愛だ。

ハブと聞いてスネークと答えるは悪魔だ。オールド バイブルの失樂園でオールド スネークがアダムとイブを騙した時の言いぐさだ。ヘビーの木之実は、ハブの木之実より旨い。ヘビーの木之実を食べれば、ハブの木之実を食べるより頭が良くなり幸せになれると言った。アダムとイブはヘビーの木之実を食べれば創造主とより楽しく暮らせると単純に思い食べてしまう。

これはアとザの使い方に誤差が生じたことが示されている。樂園の時代、ザ ドス ハブの使い方は完璧だった。そこで嘘はなく誠だけだった。そこに古の蛇が嘘を持ち込む。双頭戦略でアダムとイブを騙し討ちだ。そこからいつか誤差を修正する時が来ると言うのがバイブルの預言だ。

アとザの使い方が不明瞭、ハブを蛇という日本人は古の蛇かと思うだろう。だがそれは誤解であると亜米利加人は気づく。同時に亜米利加人は気づく。日本語はアとザやデスやドスやハブやヘビーの使い方が無いわけでは無い。訓読みの中にその原型がある。どの言語も固有にある仮名の訓読みが日本語の中にも在る。日本人はそのことが自覚出来ないだけだ。



霊界物語の真相

## 大国彦と塩長彦と常世彦の真実とアメリカの良の金神

大国彦は三五教の教義を研究して矛盾に気付き地球人に口頭の善言美詞を考案した。このため地球人は国常立命より大国彦のほうがましだった。この考案はアとザの使いかたである。三十五万年前にすでに大国彦は正しい口頭の使いかたを確立していた。国常立命は部下が実績をあげてもくだらない過失を責め有能な部下を次々と失うのに対し、大国彦の実績と過失を天秤に掛け実績があれば過失を大目に見るやり方は万民の支持を集め大国彦は男を上げていった。

太陽系宇宙連合は常に大国彦たちを援助してきた。物語には天王星より大国彦が地球の北米大陸に勝手にくだったとしか出ていない。現在、北米大陸にはユナイテッドステイツ オブ アメリカがある。アメリカの歴史は米大統領執務室別室の歴史であり大国彦たちの歴史である。そして歳月が流れ異星人たちは過去の型を付ける時が来た。

宇宙連合はアダムスキーを使い米国の真実を解き明かす。アダムスキーは、サタンすなわち時の人という。今から遠い昔、太陽系宇宙連合はエゴの感覚にとらわれていた人人にエゴを経験させるために当時、最も未開であった地球に送り込むことにした。そのころの地球は、国常立命のもとに開発が進められていたが、進んだ惑星から北米に天下りし彼らは北米大陸に一大勢力を築いた。これが大国彦とよばれるのである。それは大国彦のカルマを継承したのが米国別室だからだ。つまり米国別室のパトロンは宇宙連合なのである。その中には塩長彦も居た。彼自身は温厚であったが常世彦は我が在る。彼らの背後にも宇宙連合が控えている。彼は独自の考えで国祖や稚桜姫命が気が付かない無いの字と夢の

字の使い方を構築して書き言葉で抜きん出ていた。塩長彦は盤古大神とも呼ばれる。盤古は中国の盤古である。盤古は史記の中で初めの神であり漢語の奥義なのだ。書き言葉として進化した漢語はその起源は伝説と神話の盤古である盤古大神塩長彦に行き着くのだ。常世姫は国常立命や稚桜姫命のやり方に幼いときから、なんとなく違和感を感じて馴染めなかった。しかしそれがなぜだか分からなかった。そんなとき常世彦と出会い、常世彦は常世姫に言った。

常世彦は常世姫に国常立命の過失を指摘した。国祖のやり方は確かに理想は立派だが愛と勇気を持つて万民を愛せよというが理想を述べるだけで、それをどうやるかは汝の心に問え、というばかりで部下が実績を挙げてもくだらん過失を責めるばかり。ほんとで国祖の御意向はこうだ、と天地をうがつ政策を国祖がするわけだなし。蜥蜴の尻尾切りみたいなやり方では治められない。万民の納得する口頭を研究しようという。

それを聞いた常世姫は自分になかったのはこれだと気付き、二人で万民のために働きましようという契りを交わす。常世姫が感じた矛盾を、常世彦が気づかせたから夫婦になった。常世彦がいうことにもきちんとした理由がある。決して悪神ではないのだ。

初代常世彦は塩長彦のムの使い方を使いウラル教を開く。民衆はムの使い方を前提とした初代常世彦のウラル教を評価し、常世彦はウラル教を築く。二代目常世彦は大国彦のあとを継ぎ、常世彦のウラル教を築く。

日本で起きたことは世界に起こる。月人が型の仕組みのために王仁を日本に送り込んだように、太陽系宇宙連合がアメリカに送り込んだ良の金神が、ジョージ アダムスキーである。アダムスキーはケネディー大統領のブレインだった。アダムスキーは、ケネディー



大統領と異星人がコンタクトできるようにしていた。彼も王仁が靈界物語を述べたように宇宙哲学を述べる。

異星人の援助を受けてケネディー大統領はアポロ計画を実行する。宇宙連合の援助のもとアメリカは月面有人飛行に成功した。宇宙開発の歴史を見ると巨頭会談では、ある惑星の住人からの警告をどう扱うかをめぐって議論されたとか、フォンブラウンは、我我は、異星人の援助を受けてここまで来たといっている。

アダムスキーはサタンすなわち時の人で今から遠い昔、太陽系宇宙連合は、エゴの感覚にとらわれていた人人にエゴを経験させることにした。そこでエゴが強い国祖が治めていた地球に送り込むことにした。当時最も未開であった地球に進んだ惑星から北米に来た彼らは北米大陸に一大勢力を築くことが出来た。

文明があまり発展していないから地球が選ばれた。開発が進んでいると文明が悪用されたら大変だからだ。だが地球も開発が進んでくると文明が発達してくる。発展し始めた、科学力をどう使うかが問題になる。戦争原理で自滅か、平和原理で繁栄するか、どちらになる。その時が過去に二回あった。その二回とも戦争原理だ。それで国常立命の時代の大洪水や素盞鳴命の時代の大戦争だ。いままた戦争原理か。それが地球の計画を悪用する妖幻坊の不正だ。

そして今、再び発展し始めた地球で、現在の日本やアメリカやロシアや中国やテロが、物語の三五教やバラモン教やウラル教やウラル教の残党やウラナイ教の行動を取る。そして霊主体従から山河草木の未完成不完全の八十一巻の八王八頭靈界物語が、天祥地瑞から真実の三十九巻を超え、完全完成の八尋殿宇宙物語百二十巻へ帰る。

元の昔の神世に戻るが靈主体從から山河草木に戻るなら地球は戦争を繰り返して滅んでしまふ。最早、地球に戦争はいらない。偉大なる浄化の日が訪れるために巨大な戦争を準備するのは妖幻坊である。戦争の果てに平和が来ない。世界最終戦争が訪れる日は永遠に來ないのだ。天祥地瑞を抜けて宇宙移民や時空移民の歴史に戻るのだ。森羅万象と誤差がないそれがミロクの世である。輝かしい未来も変わらない。元の昔の神世は今も昔のままにここにある。

## 石屋の起源 その一

物語ではその一方で己が信じるままに独自に中立を保ち活動する勢力が現れた。彼らは三五教に反抗し異星人たちに国常立命への不満を訴えた。異星人たちは彼らとコンタクトし説得を試みるが彼らの激しい不満を解消できなかった。二百三十万年前や三十五万年前や一万二千年前宇宙との交流は保たれていて異星人との往来はあった。異星人は開発の遅れた地球に援助していた。当然、天王星から来た大國彦や月から来た塩長彦の系譜の常世彦に異星人は援助するのは当然だ。だから常世彦は宇宙人の援助が手厚い。

さらに宇宙船に乗って月や宇宙連合に直談判する地球人も現れた。それが、石屋の起源だ。石屋には創立当初から異星人が関与していた。石屋は結社の立場を使い裏からアメリカやロシアの利害を調節してきたのだ。単独で活動したら弾圧されただろう。彼らは影でロシアやアメリカと取引してきた。石屋は当然、過去の行動を繰り返す。石屋は大國彦や常世彦の二大勢力の再来として異星人から天之岩戸開きをする援助を受けた。

因縁の通り、ロシアやアメリカの天下を作らんと世界中を相手に大立ち回りを演じている。石屋の行動は、三五教が忍耐を尽くして沈黙した黙秘を大盤振舞している。三五教が無言で言ったことを、おおつびらにしたに過ぎない。三五教が国祖が忍耐でなした天下の雛型を実行する。石屋が悪なら国祖の忍耐が悪を為しているのだ。三五教の忍耐が自然をねじ曲げている。だから石屋がねじれるのだ。三五教は自分たちが為した悪を認めないから石屋が悪を認めない。国祖の忍耐が地球の原型をねじ曲げて仕舞う。

別室が自分の良心を騙し陰謀のし放題。それを三五教が三五教の政策とするから石屋が暴れまくるのだ。石屋が悪を為すのは三五教の型を実行したに過ぎない。三五教が人のふり見てわがふり直せ出来ないで、自分の過失を有耶無耶にして石屋が悪さするという。これが元で地球は完全完成期に移行しない。

石屋が大きなパワーを持てるのは世界で裏の利害を調節してきたからだ。世界最大のアメリカの富豪はアメリカ国宝神社の氏子総代を自認し、ヨーロッパの大富豪はヨーロッパ国宝神社の氏子総代を自認している。氏子総代は祭りがあれば費用から警備、天気まで気を付け、いろいろ世話を焼く。さらに社の修理だとか、宮司の意向に沿うように世話を焼くように、世界国宝神社の氏子総代を自認してきたのだ。

彼らは双頭戦略でアメリカやロシアの利害を調節してきた。各国の別室や高官や金持ちたちの下請けを自認し、双方の利害を調節する役割をしてきた。彼らの目的は三五教と同じで各地の八王八頭、つまり主要な国の別室をネットで結んだ密室外交と特権階級による神権政権の樹立だ。三五教はそれを国家管理主義で樹立しようとしたためにそれが型となり常世彦と大国彦が国家管理主義でなそうとした。国家権力や全体主義でするのではなく

個人が森羅万象と合体することになすべきだ。

それは結局、国祖が地球の場を知らなかつたために三五教の口伝が八十一巻でとどまつていて百二十巻でないからだ。残りの三十九巻が自由行動や個人行動の真実だ。三五教は自由行動や個人行動を犯罪と断罪する。そのためには、八十一巻のままでのほうが都合がよい。これが型になって地球では不完全未完成的なままなのだ。三五教が真相を受け入れない以上これが型になり他も真相を受け入れない。彼らはみんな地球の自治を主張するのだが真相を公開しない。

だが彼らは団体の団で仕組みを作つた。組織を束ねるために権力が起こり別室が出来てそれで結社が出来た。これが場を隠蔽することになる。地球鎖国派で国家権力派の彼らは人類の心を宇宙や場に開かせないように地球の情報仕向けるほうが都合がいい。日本の別室も場や宇宙の真実を現在公式に公開してはいない。いずれにしろ場が隠蔽される。これではあらゆるすべてに対応できん。

公開すれば自らのトラウマを自ら認めねばならなくなるからだ。それはトラウマゆえに意識すると皆パニックを起こしフリーズクラッシュして混乱するからそれを避ける。トラウマを封じ込めようとネットが張り巡らされ地球を覆いつくしている。この共同体の戒律が地球人の暗黙の前提になり、地球人のミッシリングになつてゐる。地球人は心をミッシリングに繋がれ苦しんでゐる。支配階級はこの迷宮を巧みに使い地球の支配を完成しようとしてゐる。

だが彼らとて場は隠蔽できない。いずれ真実は隠されていても必ず出てくる。出てくれば彼らも愚かではない、真実を知り真実に即した生活を送るようになるだろう。コンタク

ターも別室の加護を受けられれば、メインブラックも別室の系譜には手出しできないのだ。祕密の祕の字は必ず示す。黙示は覆いを取り除く。そのときになればみんな吃驚するだろう。

## 石屋の起源 その二

神世の昔、常世彦や大国彦は各地の国魂や有力者に対し、自分たちの配下になるように説得した。大国彦や常世彦は各地の実力者の内情を探り、的確な便宜を払い、大いに評価され各地の実力者は皆、自分から大国彦や常世彦の軍門に下った。それに対し国祖は教義の遵守を掲げ違反者を罰するだけであつた。なんら有効な采配のない国祖を、見限る者が続出した。

当時、各地の実力者はアメリカやロシアを中心にネットを組んで互いに連絡を取り合い密議をこらし巨大な共同体を構築するに至った。それが石屋の原型だ。それは三五教がウル教やバラモン教よりもまたもな采配を振るわないから各地の国魂は大国彦や常世彦のほうがいのだ。今の日本がアメリカやロシアよりよっぽどまたもな政策を掲げているか。いないではないか。だから当時から国祖は支持されないのだ。

三五教は石屋を兇党界の人足というが、三五教の組織自体が兇党界の容れ物だから型の仕組みから巨大な共同体の石屋が兇党界の容れ物なのだ。三五教がいうように石屋が悪魔の会堂なら、三五教が悪魔の会堂だから石屋が悪魔の会堂なのだ。三五教は三五教自身の過失を棚上げし石屋を否定する。三五教が三五教の過失を否定して石屋を否定し自分だけ

が正しいとするから、石屋は三五教を否定し自分だけが正しいというのだ。  
型の仕組みから三五教が善なら石屋も善になるのだ。石屋が悪の行動をとるのは三五教が悪をするからだ。そこで三五教が善を成すのが二度目の天の岩戸開きである。石屋が善くないなら三五教が善くない。石屋が善いなら三五教が善いということだ。  
三五教はウラル教やバラモン教や石屋が結託して世界の民の弱みに付け込んで、破壊し戦争に追い込み支配する双頭戦略を悪の極みという。だがそれは三五教が身内の良の金神や賢者明哲にできたことだ。別室部長の悪に寛大で善に冷酷な政策である国祖の正直者に過干渉で愚か者を放任する政策そのものだ。  
石屋の起源は三五教の内部構造なのだ。三五教の内部の悪を生み出す要素を浄化できないで石屋が善を行うはずがない。三五教がいくら善の外面を保つても内面が悪ではそれが型になり辻褄合わせのために貧乏くじを引かされ民草が使役される型になる。石屋の諸悪の型は三五教が出したのだ。ここが重要だ。三五教は石屋が地球を滅ぼすというがそれは三五教が地球を滅ぼす型を出したからだ。  
三五教は八尋殿やヒヒイロカネを内部構造に取り込んで八王八頭と神宝にしたが、それが地球の代謝系に無理な外科手術を施すことであり、生態系を活花や押花にしてキメラにしてしまうことだ。三五教が地球の免疫システムが崩壊し深刻な感染症のために滅んでしまう型を出すから石屋が双頭戦略を駆使して正直をぶつ潰す、義賊怪鳥下克上するのだ。  
三五教が各地の実情に合った政策をくだすことは可能だ。実情に即した政策をくだせば万事解決するはずだが、別室は納得のいく政策をくださない。まともな政策をくだしていけば必ず宇宙文明に辿り着くはずだ。だが別室は宇宙文明を公式に認めない。別室だけが



宇宙文明との交流を独裁し、他者の介入を排除する。宇宙文明へ地球を招待することは、別室に出来るはずだが何故かしない。

全地球人が三五教に平伏したその時こそ、三五教のご威光が輝く時であり、その時こそ三五教の奥義である宇宙移民の歴史を語るときだというのだ。三五教は全人類が三五教に平伏さない限り全人類を平伏させる準備を続ける。三五教はほおっておけば、八尋殿とヒイロカネを取り込みつつけるだろう。別室に平伏しないと地球の代謝系を完全に押花や活花にする無理な改造手術を続ける。部長に改造され別室の歯車にされ使役され朽ち果てて地獄に落ちる人生しかない中で、民は支配者の別室を称えるわけがない。

だから大成奉還が出ない。別室のご威光が輝かない。だからいつか必ず代謝系が破綻する時がくる。その時がきた時、石屋の行動は三五教がとった行動をとる。石屋が天然自然を食いつぶし暴利を貪るのは三五教がヒイロカネと八尋殿を改造し神宝と八王八頭にするからだ。

改造してもご威光は輝かない。圧制で平伏させようとするから誰も平伏さない。イソツプの北風と太陽のように暖かい太陽のようでないとい民は喜ばない。日本が宇宙移民の真相をお受け

を公にすれば型の仕組みから石屋も宇宙移民の真相を広めるのだ。なんで最初に国祖ありきなのか。何故、三五教による支配がなされなければならないのか。そんな必要はない。ないものをなさうとしてならないのだ。別室に平伏す必要がない。だから真相を隠蔽する。天然自然を改造する。そして代謝系が滅び、贖罪の大彗星が落ちてきて偉大なる浄化の日が訪れても、無理な改造手術のために崩壊した免疫系はもとに戻らず、感染症ゆえに破滅する。



三五教は代謝系を改造し改造しても深刻な事態にならないと思つていた。免疫系を改造しても三五教なら感染症ぐらい簡単に防ぐことが出来ると思つていた。当然、石屋もそう思つているのだ。石屋は石屋の天下が覆るなら世界大戦になつて全滅もいとわれない。贖罪の大彗星が落ちてきても偉大な浄化が起こるならそれでよしと思つてゐる。

## 石屋の起源 その三

常世彦は天使長に成りはしたが国常立命も素盞鳴命も、大国彦と常世彦と腹を割つて話し合つたことがない。物語では、常世彦や大国彦本人やその子孫は大洪水や大戦争を超えている。仮に最終戦争が勃発し贖罪の火の玉が落ちてきてミロクの世になつたとする。そこで初めて日本の三五教の部長はアメリカやロシアの大国彦や常世彦の末裔と会ふのだ。そこで大国彦や常世彦の末裔は三五教の別室部長に型と旗の仕組みから、私たちはあんなの影に過ぎない。あなたが戦争の型を出したから知らないうちに戦争に突入したのだ。戦争を鼓舞したのはあなただ。我我ではないというだろう。それに対し三五教はなんと答えるか。三五教は自分の過失の動かぬ証拠を突きつけられる。

地球は徐徐に崩壊し朽ち果て兇党界の容れ物にされる。艮の金神や賢者明哲が再三警告した事態に三五教はどうすることも出来ない。間違ひの大きさにただただ呆然とするだけだ。別室部長は、塩長彦のように兇党界の呪縛を絶つことが出来ても、兇党界に誑かされ断食断水の末に兇党界の容れ物にされて塩長彦の審神で正氣に戻るが結局兇党界の容れ物に常世彦がされたように、地球の代謝システムは兇党界に汚染される。

兇党界はわざと汚染は大したくない深刻な感染症が起こらないとそう判断するように用意周到に準備し、いかにも三五教の圧勝と確信させる贖罪の火の玉をわざと落とさせた手の平を返し地球の代謝系を汚染する段取りだ。三五教は兇党界の術中に嵌まり兇党界の片棒を担いでいる。

三五教が地球の代表ならアメリカやロシアや石屋が平伏すのを待つてないでどうとうと渡り合えばよいではないか。国祖は何故、指示を出さない。忍耐を以て対処するだけだ。三五教の別室部長が確信すると兇党界はその確信を予想しその確信を取り込んで謀略をめぐらす。国祖は自負心を以て厳かに政策を決めてもその判断を取り込んで妖幻坊が悪巧みする。

ミロクの世界でそのことを大国彦や常世彦や道彦に指摘されたら国祖はなんと答える気なのか。地球の命日だ。現在の日本の首相はアメリカの家臣だ。日本の別室は我慢するばかりでアメリカやロシアの大国彦や常世彦の因縁の身魂と腹を割って話し合わないからだ。日本の別室が賢者明哲や良の金神や民を抑え込み宇宙の真相をひた隠す。そして支配をなそうとする。

当然その型をアメリカやロシアの大国彦や常世彦の末は、我我は日本が出した型を実行したまでだ。宇宙文明の隠蔽工作は、もとは三五教ではないかというだろう。日本がピラミッド トリスメギストス ネットワークを潰したのだ、アメリカやロシアではない、というだろう。

その時では手遅れだ。破壊はなんとしても回避せねばならない。三五教の過失を三五教が承認することが、破壊を回避する。国祖が間違っていたのだと認めるかだ。そもそも、

三五教内部の敵のスパイや獅子身中の虫の讒言を省み、大八洲彦命や道彦の実績や本音を初代別室部長が省みないから、初代天使長や初代良の金神は初代別室部長によつて左遷させられる。それが手遅れになる雛型だ。

別室部長は自分の権威にこだわつて、実在する無限の超絶性を見ていない。上に立つ者は天然自然と誤差が無いを以て善しとするのが本位である。それを部長の判断で裁くことが間違いだ。別室は偉大な神通力を持ち異星人と交流しているなら当然宇宙文明の実際を知っている。だが実際に地球を宇宙文明へ昇華しようとしな。忍耐による三五教による支配の確立を目指す。

三五教による八王八頭と神宝による支配の確立は地球の八尋殿とヒイロカネの代謝系を破綻させる。それが手遅れになるのだ。異星人の援助を受けた三五教の別室部長はやはり支配の確立のために天然自然の代謝系や免疫系を改造しても副作用は少ないから感染症はたいしたこと無いと思つてゐる。仮に大戦となつても贖罪の大彗星で片が付くと思ひ、支配の確立を目指している。

異星人も三五教も支配が先であつて、地球の代謝系は二の次である。支配が確立すれば地球の代謝系や免疫系はいかようにも修復できると思つてゐる。だから本腰いれて平和をなさない。それは妖幻坊に誑かされてゐるのだ。兇党界は獅子身中の虫や敵のスパイを巧みに使い三五教の判断を誤らせることに成功したのだ。妖幻坊は第三次世界大戦を起こさせ地球の免疫系を破綻させ深刻な感染症を起こさせ地球を兇党界の容れ物にしようとしてゐる。

兇党界は初めから三五教を誑し込んできた。そうとは知らず妖幻坊に勝とう勝とうとし

て妖幻坊の術中に嵌まる。兇兇界対策の切札が妖幻坊の仕込み杖だったのだ。結局、宇宙は自由であり平和なのだ。戦争で宇宙は動いていないし、支配というものはない。三五教は出発点から間違っていた。

## 米国流の英語の限界

英語で綴りはスペル、呪文もスペルだ。ヨハネの黙示録のアイランド パトモスのパトモスはそのスペルの典型だ。これは英語の仮名の訓読みの典型でパトモスドロンプは、蓋いを取り除く。必ず現れるという呪文だ。スペルが言葉なら行動がスペクターだ。スペルを実践するのがスペクター。

スペクターは、スペル実現のために猪突猛進する。そこでパトモスドロンプが関わる。現時点では実現していないものを現実化するのだからそのイメージは原型の領域にしかない。そこで人間は原型にイメージを送信し原型の設計図や情報を受信する。そこで重要なのが、仮名の訓読みのスペルだ。スペルに使う言葉は仮名の訓読みを使うのが一番効率が高い。人間の音声基底思念生理的実感に最も適合しているからだ。最も原初の息吹を伝える頭脳とシンクロするからだ。

元元無いを有るに換えるのだから研究開発するうえで必須なのは無いの使い方だ。その無いには二通り有る。有無の無と、有無を超えた無の二通りだ。人間の活動で変化する有無の無の係と人間の活動で変化しない有無の無の係とがある。有無の無いは人間の活動で変化しない無で英語でナン。有無を超えた無いは人間の活動で変化しない無で英語でネバー

だ。

ナンとネバーを分け、ナンを排除しネバーを蓄積していく。ナンは変わらないから蓄積してもなにも変わらない。しかしここでいうネバーの蓄積は臨界を達成した時に、一気に変化する。天秤秤で重りが百グラムであれば五十グラムでも変化がないが、百グラムの時に釣り合い変化が起きるように、成せばなる。成さねばならぬ何事も。成らぬは人の成さぬ成けりだが、無い袖は振れないを出来ない。

ではどういふのが実現しやすいネバーか、一体どんなモンがそうなるか。そこにはハッキリとした志向性がある。実現するネバーと実現しないのでは何が違う。それは公共の福祉と基本的人権だ。誰がどう考えても当たり前がただのネバーそのものなのだ。どう考えても悪が実現しにくいのだ。

物理法則は真善美愛をも保証する。真善美愛であれば、必ず実現するものなのだ。誠なら、必ず成功する。森羅万象とシンクロする。天は天を助けるものを助ける。天の御意向である物理法則真善美愛の保証する公共の福祉や公共の福祉を成す者を例外なく天佑神助する。それが宇宙の真理だ。間違いない。保証する。

アとザはその本質の帕特モスドロンプにおいて真善美愛なのだ。それを虚悪醜憎に使うとしても真理の加護は得られない。そのことが英語を支える原動力だ。アとザが不明瞭では、英語の奥義、森羅万象の天佑神助を受けていない。アザ不明瞭の蓋を取り除くアイルランド パトモスの真実帕特モスドロンプが英語の奥義な意味が分かる。天佑神助が起こりえるのが最も高いのが真善美愛の時。それを奥義に掲げるキリストの愛の教え。それを高く頂く英語。それが米国の大義。

だが米国は戦争ばかりしているではないか。何が愛を掲げる国だ、馬鹿馬鹿しいと思うだろう。その通り。米国といえども完全にアとザを理解していない。天佑神助を完成した国家ではない。未だに国祖以来、天佑神助を成し得た国家はない。そこが地球が混乱してきた理由だ。階層構造的発想でアメリカが挑むなら米国はいつまでも天佑神助に達し得ないだろう。そこで完全なる天佑神助を為した一番乗りを目指して世界中で競争が繰り広げられる。

今までアとザが不完全だったのは何故か。英語の奥義のパトモスドロンプのどこに問題があったのか。それは光明思想の制約から解き放たれていないからである。階層構造化を推し進める限り光明思想の制約の限界に拘束される。

天佑神助を完全に行うには物理法則の保証する証明を得ればいいはずだ。それが完全に実現するネバーで在るならネバーだがそうでないならナンだ。完全にネバーで在るには、完全に真善美愛である。ところが地球では組織団体が保証する権利と義務で動いていて、森羅万象が保証する権利と義務を前提として動いていない。国家権力や超巨大多国籍企業や国際組織が階層構造化を押し進める。

ここに米国流の英語の限界がある。合衆国政府の利益は米系多国籍企業の利益であり米系多国籍企業の利益が合衆国政府の利益だ。そこに圧力団体が見え隠れする米国流の方法だ。そういう方向に米国は進んできた。それが正しかった天佑神助の分だけ米国やアングロサクソングリツシュは進化した。米国を頂点とする階層構造化は進み、冷戦の終結以後、アメリカは今では唯一の超大国である。

だが階層構造化は戦争を産み出す。敵を倒しては米国は強大化を成し遂げたが、ここに

来ていま、階層構造化がもたらした戦争化が起きている。戦いで勝負を決める手段が行詰り新たなモデルが求められている。戦争を起こしては更なる強大な戦争で勝負をつけるモデルが行詰り平和で和を以て勝負をつけるモデルが模索されている。

## 二千年の相克

ヘブライ語は極端に母音が少ない子音ばかりの言語である。子音でK S T N Hと書いても日本人なら、A I U E Oの母音がないと、子音だけでは読めない。K A、S O、T U、N E、H I、なか、K A、S A、T A、N A、H A、なか分らないからだ。

ところがそれを読むのが希伯来人的叙情感だ。読めることが希伯来人なのだ。ヘブライ語は話の内容を間合いをはかればどうにでも変えられる。そこで仲間うちでしか共有できない希伯来人的叙情観を構築出来るヘブライ語を共有できることこそが、希伯来人であるということだ。

今から二千年前、中東のイスラエルで一人の男が福音を述べる。彼が当時の猶太人に述べたのがアとザの使い方だ。ところが猶太人は拒絶して彼を磔にしてしまうが、彼の教えは世界に広まる。イスラエルは当時の超大国ローマに滅ぼされる。玉砕して奴隷にされた猶太人は世界を彷徨し、ジーザスの野郎がヘブライ語を乱すアとザなんかいうから俺たちが猶太の神の怒りに触れちまつたじゃねーかとジーザス マリア教に反発する。

キリスト教の信者はジーザス様の教えを説いてもお聞き入れがない猶太人と犬猿の仲。ここにアとザを巡る猶太教対キリスト教の二千年の相克が誕生する。希伯来人は自分たち



のユダヤの神の教えを破る時に神の怒りに触れると預言されてきた。そこにジーザスがアとザの説法を持ち出す。そのために中東のイスラエルを奪われ、世界を彷徨する羽目になった。これはキリスト教が猶太教の破戒だからだ。その証拠に俺たち希伯来人は、約束の地を追われたではないかという反感がある。

希伯来人はジーザスが説いたアとザや清貧に反発する。アとザや清貧の思想は、どの民族や宗教にもある。ジーザスが説いたアとザや清貧に反発する猶太人は世界中のアとザや清貧の思想に反発するように成つて逆手に取るように成つていった。猶太教は、世界中のアとザの教えに反発する行動を取るようになる。当然猶太教は世界中の国家や民族や宗教の清貧の思想を逆手に取り、その反対の現世利益の金儲けを追求するようになる。

希伯来人は自分たちの神の教えに従っているだけのつもりでも各民族や各宗教にしてみれば、自分たちの大事な宝物の正直を食い物にする希伯来人が気に食わん。そこで村八分にされる。それが二千年前、ジーザスが説いた、あんた、アとザを逆手に取り、現世利益の金儲けを行えば神罰が下るといふ預言だ。

希伯来人は二千年前ジーザスの説いたアとザを拒否して拷問に掛け処刑する。その時代ジーザスは希伯来人に彼方方の仕方では、国を滅ぼし離散するでしょう。彼方方は再びこの国を建てるでしょう、その時までにアとザを認めねば彼方方に災いは群がり起こり、やがて彼方方と共にする人と一緒に滅びるでしょうと予言した。

アイランド パトモスの真実が明らかに。希伯来人は二千年の間、アとザに反骨する。猶太教はジーザスを認めない。世界に散った希伯来人は、各国が練り上げたアとザを

最初にスキャンする。猶太教は、それを逆手に取る。ジーザスが清貧を唱えれば猶太教は現世利益を追求していく。

やがて世界に散った希伯来人は各国の言語や宗教の奥義の訓読みの仮名のアとザを逆手に取り、現世利益を追求する方向に猪突猛進していく。ジーザスが警告した預言が、実現した。アとザを食い物にする国際ネットワークが、今、国家や宗教を破壊する。ジーザスと言った通り、希伯来人は中東のイスラエルに再びイスラエルを建国したが、その背後には中東のイスラエルを絶対視する頑固な希伯来人と志を同じくする、アとザを食い物にする国際ネットワークが支えている。

そして米国とロシアを頂点とする階層構造を作るために世界を戦争で包み恐怖と混乱で覆い、世界統一の理想を掲げ世界統一政府、世界統一宗教を作る。そしてそれが悪い意味でのヨハネの黙示録の実現である。そして世界最終戦争が起こり大彗星の贖罪と繋がる。希伯来人は天佑神助で治めるのではなく光明思想で治めようとしてきた。国家権力の保証する権利と義務で治めようとした。それが戦争を産み出し、最終戦争で、反対勢力を相殺させ絶対権力の樹立を画策する。

だがこれは必要ない。完全なるアとザなら収まりがつくはずだ。平和の原理の樹立は、待たなし。完全なるアとザ、それはただの言葉の英語、ただの言葉の漢語、ただの言葉の日本語である。それはただの訓読みの仮名である。国祖以来、階層構造が足かせに成っている。だが、階層構造を排除してもまた階層構造が出る。アとザを使う上でどうしても階層構造化ではこれ以上進めない。

希伯来人はもともと三五教の系譜だ。靈界物語にはモーゼを天道坊でエリヤを天真坊と

言っている。希伯来人はもともと三五教の教えである表田のエリア88を伝え八尋殿を伝えたが、次第次第に尊い使命は失われて行く。そこでモーゼなどの予言者が現れ尊い教えを述べるが、だんだん使命は失われる。

ジーザスは修行の旅に出て各地で三五教の伝統的な修行を積んで、気を練って神通力を身につけた。そしてジーザスが約束の地を巡る論争を起こす。ジーザスは三五教の拠点の約束の地は三十五万年前、中東にあり、一万二千年前は中東と極東であるが今は極東であつて、中東ではない。中東に踏みとどまることは天則違反であるといったが、いいやイスラエルはこの中東だと、二つに割れた。

そこで当時の中東の希伯来人は、自分たち希伯来人が、三五教か、そうでないかに選別された。玉碎した希伯来人は、自分は三五教でないと、天地に宣言したようなものだ。自ら三五教であることを自覚した希伯来人の多くは、極東を目指した。二つの氏族は中東で玉碎し、一つの氏族はアフリカに逃れて、一つの氏族はインド中国韓国その他に別れていき、四つの氏族は陸路で、四つの氏族は海上ルートで極東の地の日本に来了。

離散した希伯来人は別室や法律や組織が階層構造であることを知り抜いていて、三五教が中央集権を目指しているその型が世界に写るから、彼らはその流れに乗った。反対勢力をねじ伏せた三五教の政策を希伯来人は使い、管理社会を作ろうとしている。日本で別室が裏から支配する型が希伯来人の切札になっている。別室部長が艮の金神を押さえつける型が中東の希伯来人の切札だ。

これは国祖以来の三五教の悪影響だ。中東の希伯来人は凶党界に誑かされている。戦前の軍国主義のデモクラシーの型と戦後の経済戦争のエコノミーの型の再現だ。これは別室

が組織を押さえきれず暴走する型の再来だ。この危機は今のままでは防げない。

## 黙示録の読み方

王仁は、お筆先は善神が悪神の真似をしていたり、反対に悪神が善神に化けたり、善神がいったんだと悪神が言ったりする場合があると言っている。これは靈界物語も前後の係りや全体で読むとXがいったとYがいったとZがいったとXがいったと読めるんだ。

Xという神様がYにいったと書いてあってもそれはX様がYにいったわけで、今、ZがYに、X様はこういっておられる。したがって神のご意向はこうだとはいえない。X様がいったわけでZがX様に言いなさいと承認を得たわけではない。つまり黙示録に書いてあるからといってこうだとはいえないのだ。

X様がYにいったと書いてあっても、X様が選んだ代理人の後継者のZがX様のご意向がこうだといったとしても、それはやはりZ本人が言ったに過ぎない。物語にしるヨハネの黙示録にしる、XがYに言ったとXが言ったとYが言ったとZが言ったとXが言ったと果てしなく続く。では、誰が言ったのか。それは私だということしかない。

ところが代理人が言った場合は私が言っているのではない、X様の代理で言っているのだということになる。それは代理で、あなたが言っているのだらうということになる。しかし私が言っているのでは代理で言っていることにはならん。

そこで代理人には滅私奉公が要求される。滅私奉公で我を滅らしてもX様が言ったことには完全にならん。あるいは代理人を完全に認めるか。それでは代理人を崇めてX様を認

めたことにはならん。

黙示録は誰が誰に何を言つたかは読む人しだいだから、そう読んだのは私だというしかない。黙示録はこうだといつても、そうだと云つたのは私だと、いうふうにししか読めない書物だ。

ところが物語を読んでみれば分かることだが、三五教は地球の救済を大成奉還でなければならぬと言ひ、問題は大成奉還は地球救済だが、三五教の別室が地球救済を必ずしも大成奉還と認識しないことだ。

例えば大八洲彦命が破軍の剣を使用したことを咎められ失脚する。これは地の高天原や竜宮城を防衛するための正当防衛だ。決して侵略のためではない。道彦は常世会議の陰謀を潰すがこれは世を欺いたのではない。常世会議の暗部を表に出しただけだ。地球の救済のために常世会議の善悪を出し正邪を世に問ひ、国常立命に審判をこうただけた。しかし三五教は地球の救済とは認めてくれなかつた。

唯一初稚姫だけを大成奉還と認識した。これは現代の別室でもそうなのだ。戦前の王仁と良の金神がそうだ。王仁三郎が地球の救済を一所懸命やつても別室は大成奉還とは認識しない。

ところが、大本潰しの軍は大日本帝国に潰されぬ、それは国体守護が別室の御深慮に合致するように働くからだ。実際に計画が実現出来るならそれはそれでいい。だがそれは見積もりだけで、中身は不正だ。資産は火の車で、しかも粉飾決済の塊だ。

それを別室に虚偽の報告をしていた。いかにも別室の好みにあうように、出来あがつた不正を、別室はそれを口伝のため黙認してしまつた。なぜか。口伝に沿うように陰謀を巡

らすからだ。大成奉還たいせいほうかんは実績じつせきが無くとも別室べっしつの信任しんにんがあれば認めみとられる。それは、犯罪はんざいであつても別室べっしつが見抜みけないなら悪わるさし放題ほうだいということだ。

これは大問題だいもんだいだ。地球ちきゅうを救済きうきゆうする方法ほうほうは幾いくらでもある。しかし、大成奉還たいせいほうかんでというのが大問題だいもんだいだ。別室べっしつが大成奉還たいせいほうかんといつてゐるのがなんだか分わからない。別室べっしつがいうには正しい神聖統治しんせいとうちを行うには厳格げんかくな手順てしゆんに従したがう必要がある。その手順てしゆんというのが別室べっしつの口伝くでんの通りであるということだ。その口伝くでんというのが実は別室部長べっしつぶちやうの觀念かんねんである。その口伝くでんの世界せかいは靈界物語れいかいものがたりと同じである。王仁わにはいう。物語ものがたりはどうにでも読よめる黙示録もくしりくだ。

物語ものがたりも口伝くでんも同じ内容ないようだ。口伝くでんの繼承けいしやうの仕方しかたはこれはこうだと先代せんだいが言いつたらこれはこうだになつてゐる。部長ぶちやうが先代せんだいになんでそんなのかと聞いても先代せんだいは先代せんだいが言いつたからだになつてゐる。部長ぶちやうの解釈かいしやくが介在かいざいできないように繼承けいしやうされてきた。歴代れきだいの部長ぶちやうは我がを摩滅まめつして我がが無なくなるようにしてきた。こうして先代せんだいになり皇位こういは繼承けいしやうされてきた。我がをなくし公こうのためということだ。とすると誰だれが言いつたのかということ、先代せんだいが言いつた。それは誰だれが言いつたのか、それはその前の先代せんだいが言いつたとなる。

とすると部長ぶちやうは自分の意思いしで、部長ぶちやうの責任せきにんに置いて自分じぶんでいつてゐるということにはならない。そうだろ。自分で考案こうあんして言いつてゐるんじゃないやなくて、口伝くでんの繼承けいしやう者しやであつて創始者そうししやではないんだということになる。部長ぶちやうは自分の意思いしで部長ぶちやうの責任せきにんに置いて、自分でいつてゐるというのがどんどん減へつていつてなくなるがゆえに、我ががなくなるから公こうになるというのだ。

しかし、エゴを完全かんぜんになくせない。公こうだけには成なれない。口伝くでんを繼承けいしやうするために部長ぶちやうは滅私奉公めつしほうこうを神集岳しんしゅうがくと先代せんだいに常つねに要求ようきゆうされてきた。皇位繼承權こういけいけんを繼承けいしやうする人材じんざいを探さがすとき、

滅私奉公に耐えられる人材が選ばれてきたから部長は滅私奉公が身にしてみている。

口伝は先代が言ったのではなく、黙示録の本来の読み方である、そう言ったのは自分だでは、部長の我で言っていることになる。我で言っているならそれは有限になる。三五教は無限からの正当性を継承したのだという論理が成り立たない。だからなんともはつきりしない。

今までははつきりしない理由はいずれ真相が明らかになる一厘の仕組みのためといわれてきたが本当は三五教にも何とかなるさという希望的観測のためだ。黙示録を悪しき嘘から出た誠でペテンしようとしたのだ。黙示録の読み方が解らない理由がここだ。本来ならばアザムで読めば解るはずが何とも不可解に成ったのは妖幻坊に誑かされ黙示録に悪しき嘘から出た誠を織り込んだためだ。

## 国祖の忍耐が諸悪の元

天然自然にとつて部長の我慢心ほどやつかいなものはない。森羅万象にとつてサラリーマンの忍耐ほどやつかいなものはない。どうしてもどうしても立場を撤回しないから場力が潰れる。我慢や忍耐が場力共鳴を破壊する三五教の教義を実践するサラリーマン。組織の歯車として役目を果たす。子や妻に馬鹿にされても忍耐。打たれ叩かれ我慢一筋。そして組織を回す奴が出世する。別室の流れに沿う歯車が出世する。弱肉強食の中を独り忍耐を以て進む義賊怪鳥下克上。

三五教は省みるを省みない。こうだと決めた基準が場を切断する。その一点が、場との



断絶である。省みるの基準が省みるの盲点になる。場を見れば禽獣虫けら草の片葉をも、場であるのに何故か基準を場と一致させない。空間の裏に場があるのだから宇宙の地平線までもみな、場であつて部長という個人の寸借法を、場だと決められない。人人ごとに場はあるし地球は自転し公転するのだから同じ一人の個人でも時時刻刻、時間も場所も違つていく。

部長本人でさえ常に基準を省みざるおえない。当然、社会は変わつていくから、基準は最初と最後では違つてくるのが当たり前なのに、三五教は部長という基準に合わせようとする。部長がさじ加減をするようなやり方は社会が部長という歯車になるから部長本人は場力の基準で動いても、社会や社会を構成する民は場から切れる。

部長はそれを見て自分の価値が自分の死角になつていると認めない、気が付かない。省みるの基準を省みない。部長は部長だというのが部長の死角だ。部長の立場で行動することは部長本人が森羅万象と断絶したということだ。部長は自分の場を行使しても部長という立場が社会を場から断絶させる。場と断絶した社会が個人を場から断絶していく。そのことに気が付かない。なぜか、それが三五教の信者である受験戦士や企業戦士の特徴である。

三五教には、そこが無いのである。別室は全く気が付かない。自分で自分を省みないのだ。部長の役目を果たすという大義名分のもと地球の混乱を省みない。国祖が愛なら地球に愛は満ちるはずだ。憎しみが蔓延るのは国祖が憎しみだからだが、国祖は自分が悪であるという間合いで考えない。考えれば自分の過ちに気づいたはずだ。省みるの基準が最高の比を和を以て尊しとなす公理にあるのだと気付いたはずだ。

おおくにひこ 大国彦や常世彦やバラモン教やウラル教の信者はみんなこのことを知っている。三五教の教典の教科書に出ていないだけだ。気が付かない理由は三五教が実はそんなに大したことはないからだ。三五教は国常立命や素盞鳴命を三千世界を一度に見渡す絶対の宇宙創造神のごとくいうが、実はどの教典も自分のところが祭る神を尊ぶのと同じで、どの宗教も自分のところが別格で自分のところが本家本元というのと同じである。

そこに気が付かない。結局、国常立命も素盞鳴命も大国彦も常世彦もドングリの背比べであり三五教もウラル教もバラモン教も似たりよつたりであると自覚できない。三五教がすべてを超絶するという考えが最高の比を和を以て尊しとする考えを否定する。超絶したのだという認識が三五教が我田引水する大義名分になり、場を見失う隙を生み出し死角が場力を切断する歯車になる。社会が民を場力から切断し、切断された民が場力を切断する歯車になつて天然自然を噛み砕いていく。

省みるを省みる間合いはアザムだ。最高の比の和を表田に配列した和を以て尊しとなすのが省みるを省みるだ。だから外国語の言霊を日本人が見つければ、それが一切の秘密を解くのだとお筆先がいうのだ。一厘の仕組みが成就するとはまさにこのことをいうのだ。忍耐に忍耐を重ねる受験戦士や企業戦士に明日はない。三五教徒が総出で千座之置戸になり贖罪をせねば示しがつかん。

二十一世紀サラリーマンがキリストになる。サラリーマンが、忍耐に忍耐を重ね引きちぎった場力の接続を修復するサラリーマンになる。人生で引きちぎった接続回線を修復することは別室に対する反逆である。叩かれ叩かれたサラリーマンが別室に反旗を翻すはずがない。しかし別室自らが別室を省みる時、時代が帰る。三五教が超絶性を主張するから

型の仕組みが働いてバラモン教やウラル教が本家元祖争いを起すなら三五教の日本が世界に最高の比を和を以て尊しとなす訓戒を垂れば、それが世界が平和を樹立する雛形になる。

三五教の超絶性が証明され三五教の支配が完成するために、反対勢力を丸ごと破壊する大戦争で決着をつけるやり方は、それこそ妖幻坊の企みなのだ。三五教は純粋に善意で、地球を支配し善政をしこうと考えた。それが盲点だった。三五教の善意が地球を混乱させる原因だったのだ。地球の混乱は妖幻坊の陰謀であるが、時空間病原体が増殖したのは、三五教のせいだ。三五教が省みることが出来れば三五教は自分が時空間病原菌を増殖させたことに気が付いたろう。

移民が進んだ惑星が発達してくると必ず、宇宙の原型は神霊か物質か、の問題になる。それは、現役超能力者と理論物理学者の論争である。だが大抵の場合それは、場力と星の真相に落ち着き宇宙に進出して行くのが大方の星の進化である。霊界物語の霊主体従から山河草木の問題が必ず起こる。地球では宗教が神霊を選択したために大洪水で滅び、科学が物質を選択したために大戦争で滅んでしまった。

三五教に攻撃してくる言霊を力の時空の星を繋ぐ宇宙ネットワークで防ごうとしたために場と対立する三五教になった。三五教は時空間免疫システムを押さえるために八尋殿を停止させヒイロカネの生産をとめる。場力の循環は滞り必須な時空間の天然自然成分の栄養は無くなり、時空間老废物が充満する。それが時空間動脈硬化を起こし危険な状態を作る。

時空間を循環する量子を正常にすればよいのだが、省みるを省みない地球のアレルゲン

と化した三五教が問題だ。時空間免疫システムの攻撃を警告と受け取るべきだ。地球が苦しんでいるのは三五教が、苦しみの型を出したからだ。三五教が自覚すべきだ。三五教が悪だ。それを自覚した上で反省すべきだ。三五教は三五教の正しさを証明できるというが出来るはずがない。時空の本質に逆らうことがなぜ超絶性か。矛盾を無限に先送りする、責任逃れを本気で構築するがときはやめよ。科学的真理的宗教的原理は樹立できない。科学や宗教が物質や神霊では宇宙の場力と星の構造を説明できない。だがどの星にも必ず理論物理学者と現役超能力者の論争を解決した場力と星の真相を解き明かした者が現れる。ようするにこの論争は霊界物語のなぞを説けば解決する。それは後、三十九巻の真実である。別室が場力と星の真相を公開するには場力と星の真相が誰にでも実感できる技法の開発にかかっている。

場力と星のゲートは別室に閉鎖されている。開くことは別室に禁止されている。だが、無限に不可能はない。真に真の進化なら不可能がないが発動する。発動しないなら真に真なる進化ではない。無限は人類の喜びが大好きだ。人類が楽しんでくれることならなんでもここほれワンワンしてくれる。ならば、なにか万事もうまいく天之岩戸開きが在るはずだ。無いはずはない。

世界の別室も舌を巻く、万事解決の八尋殿の造営にかかっている。万事解決のヒヒイロカネの生産にかかっている。万事解決の時空間免疫システムの再生にかかっている。愛に不可能がないから実際に不可能がないのか。真善美愛にはこれが可能であるか。平和が、戦争に勝つ天之岩戸開きをなせるのか。それが一輪の仕組みである。

霊界物語の表裏

## 靈界物語と宇宙移民者

太古から不思議な現れ方をして英知を授け再会の約束をして何処ともなく去つていつた高貴な御方は何処の御方か。靈界物語で考えると縄文時代は天祥地瑞の写しである。ならば縄文時代より前の靈主体從から山河草木の地球は異世界か。そのまへの天祥地瑞は靈界か。いいや違う。神靈とは觀念上の存在で実在しない。神靈で考えるのは終焉以降の考えだ。靈主体從から山河草木の時代になつて生まれた。

型の仕組みを考えてみると現在は物質の科学が爛熟するとどめの時代だ。その前に神靈の宗教の爛熟期があつた。それが十世紀から二十世紀と一世紀から十世紀だ。その前が、縄文時代一万年だ。神靈や物質というのは二千年間で發展した考えだ。紀元前後を境にこの隱世と顕世にあの世とこの世は意味合いが違う。型の仕組みから最高の比を以て考える

と縄文時代では隱世は場だ。顕世は力だ。あの世は他之天体だ。この世が今いる星だ。高貴な御方は、異世界の住人の神靈ではない。幽冥界は地球人の創作だ。実は宇宙人である。言葉の歴史を辿る時、人間の認識の形態を統計だつて時代や地域ごとにどのように移り変わつて言つたかを理解の歴史的樹形図を構築して比を見れば分かる。

三十五万年前の時代が宗教の時代でウラル教の全盛時代である。ウラル教は中国の漢語の盤古や「ム」のイマジネーションの源郷である。盤古大神の思想が無いと夢の字だ。それが仏教で開花し有無を超えた無という宗教の奥義を極めた。それが三十五万年前のウラル教の全盛時代の写しである。ウラル教が宗教として全盛を極めた時代、その哲理は人人を魅了していた。だがそれは大洪水で終わる。

霊主体従以前である天祥地瑞の時代に場力と星の間での交流があった。八尋殿やヒビロカネは場力をつなぎ、天之浮船は星と星をつないでいた。地球人の祖先は他之天体から移民してきた。その前も宇宙移民でその前も宇宙移民である。すると星と星の間で移民を繰り返し人類は宇宙に広まった。なら最初の人類はどこから移民してきたか。実は場からだ。三千年前にこの力の宇宙が場によって誕生し力を作った場の人類が力に宇宙文明を一式揃え大宇宙船団を組んで移民してきた。それが高貴な御方の正体だ。

高貴な御方は超銀河団全体に広まった宇宙文明を構成する異星人なのだ。天祥地瑞の始まりは、地球に宇宙移民者が開拓に來た頃の話だ。再会の約束をした高貴な御方は太陽系の月や金星や天王星などに住んでいる異星人だ。

天祥地瑞では当たり前であった宇宙文明も霊主体従から山河草木では、場には力の原因があるのに、幽冥界や物質界というような考えが起きてきた。場力と星星の間の生まれ変わりや宇宙船で他之天体との交流というようなことが失われた。それは宗教や科学の発生と深く関わる。

日本人は漢語を取入れる時もすでに縄文の英知を失いつつあった。縄文の英知を否定したのだ。四八音の響きを濃縮還元することで言霊を磨いてきた。その言霊は各地に息衝く。各地の部族は己が言霊を死守している。そこで神武天皇以降進められた国造りから見れば邪魔だ。そこで自由に独立独歩する言霊を廃止しないとまとまらない。だから漢語を取入れ言語体系の一新をしたのだ。

それは濃縮還元した四八音の響きの原液を無理に希釈する。一トンもある水にたつたスボイト一滴のカルピスを垂らし、カルピスと言いつけることを認めさせ強制する受験勉強に



なる。それが受験英語や受験漢語の今の不可解なですすアイウエオ調和漢外来語混淆文になったのだ。

宇宙文明の英知があるとみんな宇宙に目を向け、国祖が支配者を名乗るのはおかしいとなる。宇宙文明は宇宙を構成する要素としてあらゆるすべてと共にある。人類の起源は、無限の存在と共にあり、あらゆるすべてのなかにある。当然、無限や場や力を包み込むあらゆるすべてと調和するのが人生で、そもそもあらゆるすべてに支配者はいない。

だから国常立命や素盞鳴命は自ら支配者を名乗るオカルト以外の何者でもないになる。霊主体従から山河草木の時代に場力と星から星への真相を隠蔽し虚構に過ぎない創造主だとか幽冥界だとかを持ち出し支配の権威に使うと三五教が宗教を創始する。それをウラル教が大成させたのだ。

だが宗教と神霊は行詰り宗教と神霊を否定し物質と科学が出来た。幽冥界はない。あるのは物質だという考えになった。理屈でこね上げた幽冥界は実在しないから心霊を否定する科学は正しい。虚構の存在を否定したが実際には科学はあらゆるすべてを見ていない。実在する無限を見ていない。実在する有限を見ただけだ。三五教の意図した受験勉強の範囲でしか見ていないのだ。支配の権限を証明する正当性の研究ばかりしている。しかしうまくいかない。

宇宙文明に支配者はいない

生命の体内でなんでも命令する細胞はいない。各自が自分の勤めを果たせば生命は維持

できる。人間は無限の中で自分が自分になるという役目があるのに三五教がそれを禁止してしまった。あらゆるの中で地球人は自分を見失い権力に回される歯車となった。自分から隔離されすべてを失う。宇宙免疫システムは場自身でない異物を攻撃する。当然地球人は場からみれば異物である。地球人は場と隔離されているから地球の力は場からみれば場から外れた異物である。当然、免疫系が攻撃する。

地球人は自身自身に攻撃され、アレルギーに苦しむ。宇宙の構造からすれば支配階級の存在が地球を滅ぼす。支配者は特権階級と密室外交を使い、民を歯車として回すからだ。靈界物語で支配階級の誕生は靈主体従からだ。そして山河草木で終わる。支配者というアレルゲンがもとで、地球の免疫システムが変調を起こし、時空間病原体が大増殖し汚染された人心が悪化して、三十五万年前の大洪水や一万二千年前の大戦争を引き起こした原因になる。

国祖が自分を支配者にせんとしたから、国祖を異物と判断し言靈が攻撃する。言靈は、支配を受けないし、無限の中で無限と人の仲立ちをするから、国祖は言靈があると支配のじやまだ。そこで言靈を排除する。その結果、天祥地瑞で練り上げた濃縮還元した言靈を靈主体従から山河草木で薄めていく。言靈のパワーを殺ぎ落とさないとき空間免疫システムの攻撃に合うからだ。

それが、地球で妖幻坊が荒れ狂う原因になる。言靈を禁止され妖幻坊が荒れ狂う地球に絶望した人身は皆生きていくために我慢し我慢し我慢する。気が付いてみれば地球の環境は崩壊し人心は荒廃し滅亡しかけている。それで世の立て替えて建てる。落ち着いて立てば膝ほどの水位もないプールでパニックに陥り溺れている自分に気付くことが一厘

の仕組み言葉の仕組みだ。

受験勉強の忍耐やサラリーマンの我慢は浅いブルの中に沈み込んでじつと我慢してそのまま窒息するがときだ。三五教の忍耐が元凶だ。国祖の忍耐が地球のアレルゲンだ。三五教の教義の受験勉強が地球の人心を破壊し残骸と化したサラリーマンを生む。何故、三五教は省みない。型の仕組みから諸悪が発生するのは三五教が悪化するからだ。それを三五教は自覚している。なのに何故自分の落ち度か理解できない。

それは国常立命が超絶性を主張したから、その超絶性が盲点になったのだ。大國彦に負けない、常世彦に負けないとする心理が国常立命や素盞鳴命の心理に隙を作った。その隙が、国常立命を狂わせ取り違を生み、我慢をする。我慢が取り違を生みさらに我慢、我慢、我慢の果てにアレルゲンと化し地球を蝕む。

国祖の理想が宗教を生み出した。国祖は礼拝施設を作りそこに神宝を安置し拜ませる。それが神霊を生み出した。天祥地瑞では礼拝施設はない。無限から場力を經由して鳴り響く四八音に耳を傾けて誰でも平等に自由であるから拜むことはない。しかし国祖は拜ませた。

民が場力と星の真相をもとに自由行動をとることを禁止した。三五教の教義は天則遵守で三五教の教義が天則で、三五教の教義に従うことが天則であり、三五教の指導者である国祖に従い自由行動をとらないことが天則遵守である。

素盞鳴命や国常立命のお言葉が言霊でそれ以外は言霊でない。国常立命や素盞鳴命に従うことが天則で自由行動は天則違反であるという。そのために場力と星の真相を我田引水していく。権威を高めるために利用したのだ。濃縮還元された言霊は極限まで薄められて

四八音の響きは機能しないまま薄められていった。

神霊が考案され礼拝施設で拝むことが当たり前になる。神仏に救いを求める心につけて込んでお布施を要求することが日常化し、權威が無実の人を裁くようになる。人人は宗教が空論を述べ神霊が空想だと気付く。そこから宗教を否定し科学が起る。三五教が場力と星の真相を支配の道具に使い、宗教が生まれそれが結局免疫システムの異常を起こさせ、三十五万年前の大洪水になる。その反省から科学が生じる。だが科学も、やはり無限から来る四八音の響きを否定し免疫システムが異常を起こし大戦争を起こす。

そこに共通しているのは言霊システムの異常である。自由行動を禁止する三五教がアレルゲンなのだ。受験勉強が言霊を否定するのは場力と星の真相に民が気が付かないようにするためだ。そうでないと支配が保てないからだ。上手く民を先導しないと民が真相に気が付いたら民はみな宇宙文明がいいというに決まっている。そうなれば支配なんか要らない、さつさとやめて宇宙に出ようと言い出すからだ。

自由な四八音の響きを認めない三五教

なんでもかんでも、管理、秩序、という。特定の個人や組織がすべてを手に入られるはずがない。あらゆるすべてと隔絶された地球人は押し花や生け花のように輝いた後、朽ち果てるだけだ。三五教に取り込まれた民は野に咲く花のように実を付けることはない。特権階級と密室外交による神政政権の樹立は地球の言霊の崩壊だ。四八音の響きが事切れる。

国祖は教義が天則であるというべきではなかった。天則は常に教義を越えているというべきであつた。教義が天則という考えが国祖に従えという考えになり、法律に従うことが天則に従うという考えになる。私よりも天理天則は偉大で私は森羅万象のお手伝いをしてゐるに過ぎないと言つて民を愛せば、大国彦や常世彦に国常立命や素盞鳴命がつけ込まれることはなかつたはずだ。

国祖は偉大な宇宙文明に追いつき追い越せの一心なのに一向に開発の進まぬ地球に焦つてゐた。地球はこの太陽系で最も早く開発が始められた星の一つでありながら最も未開な星であつたからだ。後発の惑星が大宇宙文明を構築していくのをまのあたりにして、自分の力量が足らず、なんと地球は情けないことかと思つてゐた。それは各惑星がその惑星の四八音の響きを濃縮還元することに成功したからだ。国祖は焦りその心理が国祖に地球の固有の響きを聞き取らせない。

国祖は地球を情けないと思つていて、その卑下が地球の良さを国祖に自覚させない。それが三五教が言霊を否定する原因になる。最高の比の和を以て言霊という視点で三五教に欠けた理由は地球の言霊を理解してゐなかつた国祖の心理に原因がある。法の精神はまづかな嘘。法の精神を構築するために場力と星をめぐる宇宙文明の実在が隠蔽された。法の精神は人類を管理するために作られた偽善の大悪である。受験勉強は三五教が民を管理するために構築された。

日本は法治国家であり三権の長がいる。行政の長が政府を運営し、その政府を支えるのが内閣調査室である。そしてそれらを動かす別室がいる。別室部長が国権を動かすのだ。その別室こそ、真の三五教の正当性を受け継いでゐる。戦前、三五教は大本教ではない、

別室だ。今も三五教は別室だ。

教科書検定をする文部科学省は学校を支配しその方針は政府の方針である。それは別室の方針であり教科書は三五教の教典である。教科書は言霊を否定し場力と星の真相を認めない。それは別室の支配を脅かすからだ。つまり宇宙真相が表に出ると三五教が崩壊するのだ。民を騙さねば支配できない三五教の教義が民を苦しめる。別室は無限にとつて厄介なアレルゲンだ。

国祖は自分の政策が言霊の破壊と認識していなかった。どが悪いかわかっている。それは今も継続していて別室にはなぜ民が別室を崇め尊んでくれないのか部長には理解できない。国祖の理想は格差社会を構築しただけだ。真理に違反した戦つて勝つやり方を生み出した。宇宙にあるものはみな、場の原型の通りにしないと言霊に攻撃され不幸の階段を転げ落ちていく。地球のアレルゲンの別室が、地球に不幸をばらまく。言霊の生存権を名乗り曲言の生存権を主張する三五教に言霊は手こずっている。

間違つた公理を超絶性で証明しようとする。ではその超絶性とはなにか。実は超絶性と言っているだけ。張り子の虎。不明瞭で煙に巻いているだけだ。実体がない。別室は実際にこうだというものを持ち合わせていないのだ。

通常移民が進んで開拓されていくと進化を巡り論争が起こる。宗教と科学をめぐる論争だ。現役超能力者と理論物理学者の論争だ。だが大抵の星で神霊や物質という考えは過ちだと認識が生じ場力と星のほうに向かつていく。

言霊免疫システムを停止させた三五教の過失も、心霊や物質の発生も進化のシステムからそれたからだ。組織つまり階層構造や対症療法は、宇宙にとつてアレルゲンだ。三五教



が間違いを認めればバラモン教もウラル教もウラナイ教も間違いを認める。  
通常の進化のプロセスを踏んで行くことが成長だ。それはどの星でも宗教と科学の対立  
が必ず起こる。その問題を解決できるかは三五教の抱える欠点を解決できるかだ。それが  
一厘の仕組みだ。場力と星の真相が出るか出ないかだ。

### 深刻なアレルギー反応

自然界の免疫システムは自分でない異物を攻撃する。別室は場に準拠し、当然免疫シ  
テムは部長を異物と判断しない。だが末端の民は別室に合わせるために自分が自分であり  
ながら自分でないという状態にある。自分が自分なら異物ではないが、自分が自分でない  
と免疫システムが誤動作して激しいアレルギー反応が起こる。

民や、禽獣虫けら、草の片葉でさえも、自分でなくなり苦しんでいるところにアレルギー  
反応でさらに苦しめられる。怨嗟の炎が燃え上がり国祖を呪う。

場から隔絶するために三五教は組織を作る。三五教の発生は組織の発生だ。管理者が生  
まれたのは国祖が始めた。自然界に特定の絶対人格創造神など居ない。無限がいつ始まっ  
た。それは無限だ。無限は無限であるが故に無限である。無限の始まりは無限であり国祖  
が絶対の存在というのは三五教が言ったに過ぎない。霊主体従から山河草木で国祖の支配  
のために宇宙移民の歴史を切断し神話と伝説に作り替えて支配に繰り込んでいった。  
天祥地瑞の時代や縄文時代、人人は宇宙移民者としての人生を全うするために生きてい  
た。されば大自然を相手とし、おのが感覚すべては場より出でる。なんとなれば、場力の



噴出口、取込口と化し、創造化育の捌口と成らんとして人生を終え、新たに生まれ変わらいつかは故郷の場に凱旋しようと楽しい日常を営んでいた。だがその樂園の時代も国祖の意向で終わる。

国常立命は純粹に権力を掌握すれば大国彦や常世彦を押さえられると判断したが、その判断が地球の進化を歪める副作用をもたらしたことに気が付かない。地球の混乱が大国彦や常世彦や妖幻坊の悪さのせいだと信じていた。実際は国常立命の政策が地球の言霊即ち地球固有の四八音の響きを不明瞭にし、民に聞こえないようにして、民が宇宙の構成要素として生きるすべを奪い、三五教の組織に練り込んだことにより、地球固有の時空間免疫システムが機能を失い、時空間病原菌の妖幻坊が大増殖し地球が危機に陥った。

確かに一見すると、三五教は悪さしていないように見えるが、この諸悪の雛形はすべて三五教に雛形がある。悪の型を出して、悪いことは何もしないという三五教が雛形になり、バラモン教やウラル教が自分たちが悪くない、自分の愛に従わない相手が悪いのだという原型になっているのだ。

内閣調査室別室は、アメリカやロシアを批判するが、他国は実は日本の影にすぎない。三五教の筋書きの通りに動いているのだ。アメリカやロシアを批判するのは自分で自分を批判している。日本が単純に善ならアメリカやロシアは単純に善をなす。悪をなすのは悪の型を三五教がするからだ。三五教の悪つまり日本の悪とは、自然を解剖し別室の支配に練り込んでいった三五教の歴史そのものが悪行の限りを尽くしていることだ。

自然や民、禽獣虫けら、草の片葉でさえも騙す三五教の前に場は、歯が立たない。どうしてもどうしても強権をちらつかせ、支配の確立にこだわる三五教の前に誰も恐れて逆ら

えない。このままでは必ず破綻する。どうやっても一介の人間に無限の肩代わりは無理。三五教は用意周到に既成事実を作り上げ正当性を主張するがそれは無限に対する詐欺だ。教義遵守のどこが天則遵守だ。教義が天則を超えられるはずがない。

三五教は矛盾を先送りにする作戦をとる。一が行詰つたら二を通る。二が行詰つたら三を通る。それを無限に繰り返せば矛盾はないと同じなのだ。その結果、地球はバグやエラーだらけになった。人間は本来、四八音の響きと寸分違わぬ生き方をするので無限が矛盾を解消する生き方が筋だ。三五教の矛盾を先延ばしにする生き方は、地球人が無限と寸分違わぬ生き方をやめさせ、地球人が無限を構成する一翼を担う生き方を禁止してしまふ。

支配のどこが悪いというような不可解な言動をするものは、三五教の熱心なセクトであり三五教教義に陶醉している。宇宙移民の歴史を破棄し、権力の奴隷にしようとする別室が支配の正当性を保証するために受験勉強を創始した。その成果である知恵や学は三五教の専売特許であり三五教教義である。別室が宇宙移民者たちの歴史を改竄する以上、教育や学術の機関が宇宙移民者たちの実在を認めるはずがない。

地球の文明の歴史はもとは時照愛人の宇宙移民から幕を上げたことを別室が隠蔽する以上、政府が太陽系宇宙連合の存在を公認するはずがない。宇宙移民が場から始まったのだから四八音の響きは場から響いてくる。鳴り鳴りて鳴りやまらずところの言霊のうように無限から響いてきて場から力に噴き出し取り込まれる言霊の響きを、受験勉強で改竄し隠蔽させないと民は皆、自由に場の規格に合うように生きてしまい誰も別室に見向きもしない。

これでは支配できないから受験勉強を持続継続させ、言霊の響きを掻き消してしまおう。真相が聞き取れる人材を破滅させる体制が受験勉強であり、受験戦死したのち経済戦死して一生を終えるとそのあと、実在する地獄に堕ちていく。言霊に従うから人生は宇宙移民の成せる宇宙文明の完全完成への構成要素になれる。それが死後、更なる進化に進めるが自分で自分に刃向かつて一生を終えた受験戦死者や経済戦死者は死後も自分で自分に反逆し、時空間自己免疫疾患に苦しむのだ。

地球の法律で合法で一生を終えても場に違反した者は自分で自分に苦しむ。自分が宇宙文明の歴史が伝わっていて当然、死んだら場から力に生まれ変わるのが常識だったが霊主体従から山河草木と縄文の終焉以降では、宇宙移民の歴史が改竄され、幽冥界という観念の寓話が広まる。当然、拝んでも何も起きないから見切りをつけ心霊を否定し物質に走る。

何も知らない地球人は自分の本体が場に在ることが受験勉強で分からなくなり場に反逆し借金して人生を終え、場に返済を迫られアレルギーに苦しみもがくことになる。諸悪は三五教が神政絶対支配を求めたことにより生じたのだ。

国祖の政策は地球人に激しい不満を起こし組織の支配者の創始は地球が場から断絶するという第一段階的破滅をもたらした。そして国祖御隠退後は支配者が組織の覇権を巡り血を洗う下克上を生み出し破滅する第二段階的破滅になった。

霊主体従から山河草木の三十五万年前の大洪水が第一段階的破滅である。霊主体従から山河草木の一万二千年前の大戦争が第二段階的破滅である。縄文の終焉以降、十世紀まで

が心霊と宗教の時代で二十世紀までが物質と科学の時代である。そして戦前が国祖の神政の時代で、戦後がその崩壊後である。平成元年が大洪水であり平成以降が大戦争の時代である。

重要なことは再び世界大戦を起こせば火の雨が降り注ぎ、大彗星の贖罪の火の玉が落ちると時空間免疫システムが根本から崩壊してしまう。仮に贖罪の大彗星で世を清めても、自然発生的に発生する時空間病原菌や、わずかに残留した時空間病原菌までは除去できない。そうすると免疫システムが崩壊しているから増殖を止められない。地球は完全に汚染され破滅する。第三次世界大戦は地球人類の敗北であり、その雛形が完全なる破壊になる。第一と第二段階的破滅が合体した完全な破壊である第三段階的破滅の雛形になる。

## 人類史の真実

霊界物語という供述では虚構物語になっている。大嘘吐いて誠を出すための嘘吐き物語だ。それで宇宙の真実が嘘で覆われて、在りもしないでつち上げの幽冥界物語が編纂された。悪因が善果にかえるという考えは、詐欺や恐喝や略奪や借金で遊んで出来た負債を踏み倒す考えになる。それではその散財している富はどこからくる。まっとうに働く人の宝を奪うのだ。それでは誰も働かない。みんなして窃盗ばかりしていたら世は滅ぶ虚構物語になっている。

それは嘘の上に成り立っているのだ。だがそうではない。単に善因だから善果が出るならみな善因をするから嘘から出た誠はいらないはずだ。そして肝心なことが霊界物語では

書かれていない。靈界物語を読むだけでは救いがなくて暗くなってくる。地球は、なんと悲惨な星かと絶望する。本当に地球人が元は月の時照愛人と同じなら、宇宙から移民してきたなら、その宇宙文明も場から移民してきたなら、当然地球人も宇宙文明を築けて当然だ。物語では書かれていないだけだが物語の時代の地球では宇宙文明が地球にも在った。平和な宇宙文明は決して不可能ではない。宇宙に進出するには、平和でなければならぬ。そのカギは物語の中で宣伝使の布教旅と宣伝歌と十二の神山靈山の神聖庭園に置かれた八王八頭と神宝や、天之浮船などがそうだ。地球人が未だに宇宙に進出できない理由は宇宙文明の文明の利器が作れないからだ。宇宙船にしるコンピュータにしる地球のとは違う。それは根源的原理の差だ。

本来、そういったものは移民の時に、一式揃えてくる。地球でも時照愛人は一式揃えて移民してきた。しかし、二百三十万年前の天祥地瑞の時代から度重なる天災で開発は進まない。だが、灯台下はまつ暗がり。地球は知らぬ間に醜いアヒルの子になっていた。

人類と宇宙の正しい歴史は場と力の真実だ。三千年前に伝説の創造主と救世主はこの宇宙の力を開闢した。伝説の創造主と救世主の相思相愛によって、場から我我のいる力が誕生した瞬間だ。

その時、大船団を組んで我我の人類の祖先が宇宙文明を一式揃え移住してきた。そのころには超銀河団全体に原人とか云われる存在が居住可能になっていた。そこで彼らは原人たちが居住可能になった惑星に移民を開始した。それから人類は超銀河団全体に生活圏を拡大していった。

そして二百三十万年前に地球に時照愛人が移民を始めた。しかし、当時の地球は環境が

安定せず、何度も大天災にみまわれた。そこで環境が安定していた月球に本体が移住して時照愛人のトップだった素盞鳴命がリーダーになる。それが奥義書の天祥地瑞、全九巻である。その様子は二百三十万年前の月の様子であり、地球の様子である。

地球には一部が残った。そのリーダーとして時照愛人のナンバーツの国常立命が残った。そこから物語の本篇が始まる。本篇は国常立命の神政の時代の常世彦と大国彦の行動や、さらに二神により国常立命の神政は崩壊し、二神の対立による三十五万年前の大洪水により滅ぶまでと、その後、素盞鳴命の神政と常世彦と高姫とウラル教の残党の行動により、その神政も崩壊し、一万二千年前の大戦争が勃発し滅んだ時代の二つの時代が本篇に書かれている。

霊界物語は大きく分けて一巻から六巻までが三十五万年前と、一万二千年前の六巻から七十二巻までと、二百三十万年前の七十三巻から八十一巻までの三部構成になっている。その他に蒙入記や宇宙真相がある。だがそれは八十一巻では不完全未完成の霊界虚構物語だ。幽冥界のために場と力の口伝は封印されてしまったからだ。だが宇宙ではどの星も地球と同じ環境で同じ生き物が住んでいる。しかし諸所の事情により天体の真相は伏せられてきた。

三千年前から始まる歴史を考えて百二十巻で完成する宇宙物語が真実だ。宇宙物語では霊界はない。霊界は妖幻坊が兇党場を作ろうとした陰謀だ。だが残りの三十九巻が編纂される時がきた。宇宙物語が世に出る。お隣同士の惑星の隣人が宇宙文明を築けるなら月と同じく時照愛人の地球人も宇宙文明を築ける。

当然、宇宙文明は地球人が自立するための援助をしてくれたから、宇宙と交流していた



嘗ての世界での生活は、宇宙文明と相似する。それは今の地球人にも出来る。宇宙文明の生活を分かりやすく表現することはできるし、その原理も宇宙物語に出来るはずだ。地球の生活が、宇宙の生活に帰る様子や、力が場に帰る様子を描くのは面白いかもしれない。当然、その生活を小説にも出来るはずだ。

現在の地球の文明でも宇宙文明と八割は同じだが二割足りないところが在る。日本国内にも海外にも宇宙文明に転用できる技術がたくさん在る。地球人は宇宙人からの援助を受けてきた。その援助を取り込んで物語に出来るはずだ。それが場と力と星から星への証明だ。

これは愛情が勝つか憎悪が勝つか。高天原が強いが兇党界が強いからだ。それしかない。どちらが勝つか、どちらが負けるか、ということだ。天然の注ぐ愛情を選ぶか、愚行を選ぶか、ということだ。争いが勝つか、和が勝つか。戦争が勝つか、平和が勝つかである。その勝負はもうすでについていた。往生せいや。

### 霊界物語の生活

正直者が場力を見る。愚か者がトラウマを見る。時空間の特性は天然成分の最適化と、蓄積に向かう。ロードマップで気を練るのも、人間の本来の場力の力も、当然真善美愛に向かう。愚か者が愚考をしても、愚か者から多くの異星人は、人間の本来の場力の能力で身を守る。愚か者の視界から見えなくなることや、霊界物語に出ている三五教の宣伝使の霊縛のようなことが出来る。



生産はヒヒロカネの生産であり農業も漁業も工業もある。その原材料も、やはり場力を解析して決まる。職人が何かを作るとする。道具も材料もネットで検索しピラミッドの決済がおりれば手に入る。すばらしい動機があれば技術の習得のための研修もいくらでもただで出来る。それだけの記録の解析があればだ。当然遊び暮らすだけで決済がおりる人もいよう。多くの人は自分の原型を考え決済が鏡に写りし自分を考える。

つまり、ビジョンを新鮮に保つためにやはり働かねばならないし技術の取得もいる。それはネットですぐに見つかるしたで手に入る。そういった文明である。当然、宇宙文明ではお金が無い。決済の手段にお金が無い。いわゆる電子マネーのようなものである。ただし値段だけ払えば手に入るというふうではない。ようはヒヒロカネ天然成分を検波することが出来るのだ。

当然流通はすべて天然のサイクルに乗り、乗らないものはネットから排除される。生産はすべて天然のサイクルに乗り、乗らないものはネットから排除される。消費は、すべて天然のサイクルに乗り、乗らないものはネットから排除される。

すべて天然のサイクルに乗り、乗らないものはネットから排除されるから人類は英知を天然の流れに乗るように使うのが当たり前。当然特許や知的所有権の解釈は違う。人間の英知で出来た権利など、末代かかりてもありはせんと考える。特許料など有象無象だ。そもそも宇宙文明では人類の英知は、すべてあらゆるすべての活動の一端で英知を発生させる物理の現れである。英知は場の領域にある我々の原型の作用である。場の原型が無限と連動しその現れである。

当然、我々の文明も場にある原型の写しである。当然、権利も場が第一だ。しかし場に

権利があつても力の我我は場に恩賞を支払いようがない。権利料といつてもそれがすでに力にある以上もうすでに場のものだ。力にあるものは地球人のいう権利も含めて場に所属する。だが場は使用料を請求しない。酸素も水もとは場のものだ。場が求めることはただひとつ。天然のサイクルに乗ること。それだけ守るなら何をしてもいい、したい放題しなさいと場はいう。

宇宙文明では好き勝手気ままの使放題。それでも何の問題も無い。場力は完璧であるがゆえに正邪真偽ともに誤ることが無い。宇宙文明には国会も最高裁判所も官邸も無い。ネットがすべて引き受ける。確かに代表や指導者はいるが権力者がいない。法律で支配し、違反者を罰するというのが無い。基本的人権の尊重というのが当たり前。相手を尊重するのは空気がみたいなもので相手に危害を加える発想そのものが無い。何をしてもいいというのは正直の活用は無制限ということで、愛情ばかりで憎しみが無い。

宇宙の物理構造に戦争は無い、あるのは平和だ。無限から連なる平和だ。当然、月人は平和に暮らしている。ネットで結ばれ自由に宇宙を航行する。どこの星も人類が生活しやすい環境で天佑神助な生活をしている。広い宇宙を航行するのにはどうしても化学燃料では遅い。時空の壁を越えるには宇宙の量子の代謝の流れに乗る量子燃料でなければならぬ。

宇宙文明では装置の制御はみな精神感応である。何故か、それは正直であるかを見るためである。精神性が向上しないと装置はうまく扱えないようになっていく。未熟な精神では装置の扱いはいまぐれいかなくなるように出来ている。それは精神が出す想念を検出できるからだ。

なら、地球人がすべきことはなにか。今、個人ではなにも出来まい。それは個人の問題ではない、階層構造という原理の問題である。地球全体が階層構造で覆われている。個人が何しても、階層構造の鎖で繋がれている。妖幻坊の陰謀により、滅ぼされるか地球人。場力と星の真実に移行するすべはないのか。いいやある。大體、月では自由行動天則遵守と言いながら地球では天則違反とは不可解なり。月では自由行動を謳歌し奨励しているし、自由行動がうまく行くことは、みな誰も彼も周知している。月で自由行動を禁止したら月人はみな反対する。

## 愛の進化の形を示せ

進化の段階で完全なる場の原型を力が超える時、進化が起こる。時空間免疫システムを進化させ宇宙文明に参加する。愛の進化の形を示せ。宇宙の進化にその名を示せ。それが出来る立場にある地球人。神霊や物質を超えて無限の場力と星の循環を再構築する。今までの地球の欠点を克服する場力共鳴の型の構築である。

天祥地瑞の型の前は、宇宙開闢の前である。場から宇宙文明を一式持つてきたのだから天祥地瑞の始まりにも地球に移民した異星人は宇宙文明を一式持つてきた。だが地球は神霊や物質に落ちて二度も滅んでしまった。その欠点を克服できれば真に真の進化である。じつはその進化は賢者明哲の先人たちの手で、すでに成っていた。

ただ先人たちの成果が宗教家や科学者の成果と違うから公開を躊躇う。嘘吐きが場力と星の真相を潰すから、受験勉強と違うから公開を躊躇う。宗教家や科学者は神霊や物質を

よくよく確かめもしないし、場力と星を認識もしないから、受験勉強は真相と全然違うから、その真相を広めようもない。真相を隠蔽した三五教は完全に行詰った。しかし今更、嘘でしたとは言えない。だが、先人の積み重ねが不可能を可能にした。

神霊を祭り拝ませたり、物質の摩天楼やお金の栄華を極めるのを見ながら天然自然のために尽くした栄光なき天才の先人がいた。賢者明哲が成したのは天祥地瑞の前に戻すことである。神霊と宗教に傾いた地球を場力と星の真相に戻そうと先人は研鑽を積んだ。無限を自覚することは誰でもしている。ただ受験勉強の弊害が響きを引きちぎる。組織で動くことでしかできない戦士の心と体の正常な感性や直感は蝕まれ狂っている。

人生はなんにもない空虚で生きてきた残骸と化した戦士に栄光はない。愛の癒しが人生を変える。冷酷な環境で苦しんで生まれた発明発見の集大成の製品になんの価値がある。生きとし生けるものすべての精気を消耗し出来上がった、売り上げになんの価値がある。

無限の可能性を破戒して勝ち取った偏差値に一体なんの価値がある。経済戦争や受験戦争が一体どんな八尋殿を造営した。一切造営していない。

すべては真理と一体化し一挙一動一語一句が真善美愛の表現となり、偉大なる癒しが起こる。この癒しは惑星を癒すことが出来るのだ。惑星を宇宙の真理の海の中に溶かすことが惑星に住む住民の役目だ。これは惑星に住む知性しか出来ないことだ。霊主体従から山河草木の縄文の終焉の以前以後とでは、地球人の時空の認識は大きく変化した。場と力と星から星への肉体の移民と魂の輪廻転生とはなんのことが記憶から失われたのだ。

それは国祖が悪人に寛大で善人を蔑ろにする政策を執り、三五教が言霊を失い、日本語が退化していく過程だ。三五教が支配をなすためには、宇宙文明のように無限として人生

を全うする哲学が邪魔だ。場のご意向が第一では、誰も別室のことを見向きもしないから場と力と星から星への真実を隠蔽する必要があつたのだ。

かつて縄文時代、日本人は宇宙文明と交流していた。それが縄文人が正しい歴史的認識を持てる大きな要因であつた。地球人類が地球に封じ込められ、魂の原動力を失い、魂の記憶さえ失つた、さらに悪人に甘く善人に冷酷な政策が追い打ちをかける。

地球は地獄と化し混乱が続く。一厘の仕組みは戦争ではない。單純に地球人が、正しい歴史を理解すれば、それで地球は収まる。時空の認識は簡単である。明瞭であることが、第一だ。明瞭でないが在つては成らない。地球は不明瞭だらけだ。自分の時空間の原型が明瞭でないというのが在つては成らない。言霊が皆、不明瞭になるからだ。

時空間の背後に人類の真の故郷があるのに誰も見向きもしない。かといつて三五教は、日本人が楽しい生活を送れるように采配を揮うことさえしない。悪人に寛大で善人に冷酷な三五教が型になり、地球で善が廃れ悪が隆盛を極め、別室は誰も、別室のいう通りにしないと部長が嘆く、この地球の惨状。なぜだ。何故、正直を三五教は潰す。

三五教が三五教教義天則遵守を叫ぶが、森羅万象が別室にひれ伏すか、馬鹿たれが。それは四八音の不明瞭だ。四八音の響きを明瞭にすれば、三五教教義が天則遵守でないことがありやかに分かる。天理天則是天理天則自身であり、三五教の三五教教義天則遵守は、三五教の手前味噌にすぎない。

これは重大な問題だ。何故なら三五教が天下を取れば地球は破壊するからだ。三五教が地球を救うというのが嘘。三五教が地球を救済すると、地球が破滅する。何故なら、地球の救済とは地球が地球自身になることだ。三五教が天下を取るのではなく、地球の原型と

寸分違わぬことだからだ。三五教は三五教が天則であり、三五教に従うことが天則に従うことだという教義を立てた。それが天則違反だ。唯の人間に森羅万象の肩代わりをするとは出来ない。

出来なかつたから、国祖は御隠退することになった。そして今度こそ天然自然のかわりに地球を支配しようとした。三五教のそこが間違いだ。地球の救済は、三五教の元締め、別室が支配をやめることだ。何故アとザに気が付かないのか。それは別室の支配を樹立するのには支配の正当性が保証され証明されねばならない。

しかし国祖にとつてアザムは自分の正当性を否定するから国祖にはアザムの比の和を以て尊しとする発想が出ない。自分だけがという我を排除できない。自分「自分我」一番正しいという我を排除できない。だから自然の立場で見ることもない。自分が正しいという立場で見て、民から見れば場から見れば、どう見えるかが見えない。三五教が視線を変えて見れるかどうかが命運を決する。

## 宇宙の奥義

森羅万象はあらゆるすべてであり、感覚出来る無色透明の时空の背後に場があり、さらにその先も無限になつてゐる。我の时空が突然、裂けたりしないのは無限がめいいつぱい詰まつてゐるからだ。水が高いから低いへ流れるように、無限は有限に流れてとまる。無限が有限に吹き出すためには、ちょうど音叉のように共鳴することだ。無限に鳴り響く無限の四八音の響きは場にある。力が場と寸分違わぬ時、鍵と錠が一致する。送信機と、



受信機の周波数帯が一致し共鳴が起こり送受信が起こる。

禽獣虫けら、草の片葉さえも、場力と共鳴する。本来、文明は人間に場力共鳴をなす。何故なら人類は今から三千年前に場の文明がこの我我のいるこの力を創造し大宇宙船団を組んで時空を超えて移民してきたからだ。

天祥地瑞や縄文時代、自分たちが三千年前からの宇宙移民者たちの壮大な記録の一部に過ぎず、宇宙完成の一翼を担い地球の修理固成を行つてゐるのだという自負心があり、万古末代まで続く進化を樹立しようと理想に燃えていた時代だ。

だが霊主体従から山河草木、縄文の終焉の二千年間で三五教の過ちが地球を覆う。国祖は自分が主宰神になって地球を愛撫しようとした。そのために地球人を自分の命令で動かそうとした。理想社会を構成するパーツにしようとしたのだ。それは民や草の片葉をも場と力を切断する。国祖は自分は場力共鳴を保つも国祖以外は国祖に合わせねばならない。そうすると民や草の片葉でさえも、自分の場力共鳴より国祖の意向を優先しなければならぬ。

国祖つまり別室部長とその側近は場力共鳴できる。だがそれ以外は自分で場力を切断しなければならぬ。そうすると世の中の四八音の響きが曇る。世の中は場の原型と一致しなければ収まらない。場の意向を優先すると理想社会が出来る。

だが国祖は理想社会の建設を第一とする自分のご意向に従えという。三五教の教義が、天則遵守だから三五教に従えば天理天則の森羅万象に従う必要はないという。場の意向より部長の意向が優先されるのが三五教だ。場と国祖、どちらに従えというか。三五教は場より国祖を優先しろとは決して言わない。ただ天則優先という。つまり命令でなく自発的



に三五教に従えというのだ。

ところが、天則優先なら場に従うことになるはずだが、場に従えば三五教に潰される。三五教は地球人に自発的に天然自然に借金させてその上前をはねて贅沢している。民は、森羅万象の借金取りに襲われ苦しんでいるのに三五教の教義が真理であるというのだ。

別室は自分たちは命令していない。民がかつてに森羅万象から借金しているといっている。自分たちは民が勝手に作った借金など知らんと言わんばかりの態度だ。別室が地球人に負債を作らせておいて知らんぶり。場力の切断は、概念観念的にはじつに民主的な理由だが、事実上実質的に切断を強制している。

国祖以来部長は場力共鳴を遵守し天則に従う。だが民は自分で自分の場の原型に従うことを強制的にやめさせられ、部長の理想を実現する歯車にされてきた。それは自分が自分で無限の構成要素に成ることを禁止されたということだ。従って地球は本来の姿から離れていった。

三五教は自分たちは森羅万象に従えといっているのだという。別室に従えば認めるが場に従えば認めないのに天則に従えと言っているのだという。この理屈。これが三五教である。これが地球を混乱させる。だが三五教は自分たちは天理天則に従えと言っているのだというのだ。ことある事に常識を持ち出し常識を主張する。そこに部長がある。

貼り合わせてもくつつかない。付かないものは付かない。やがて継ぎだらけになって壊れる。最悪の二度目の天之岩戸開きの危機が迫る。宇宙文明は地球の自治というが別室のどこが地球の自治だ。別室の良心は偽りの良心だ。部長は偽場力だ。地球の支配を画策する別室がなぜ地球の意志だ。本来地球の自治には支配者なぞいらぬし、別室はいらぬ

い。地球の自治を潰した別室の主張が、地球の本来の自治であるはずがない。月人は地球の自治が成り立たないようにしてなぜ、地球の自治の問題を持ち出すのだ。  
地球の本来の姿になるようにして、地球の自治を持ち出すのが自然だ。三五教の過ちを修正しなければ地球の自治は成り立たない。三五教が責任逃れをやめて本腰入れるしかない。別室という特権が極秘に組織を総覧する制度がはたして本来あるべき地球の自治なのか、三五教は大まじめに考えるべきだ。宇宙で最も神聖な別室というのが果たして天則かおおいに考えるべから疑わしい。情報操作で常識を作り世論を支配するのが果たして天則かおおいに考えるべきだ。

2015	2011	2010	2010	2010
年	年	年	年	年
6	1	5	4	4
月	月	月	月	月
2	2	5	1	1
2	3	5	0	0
日	日	日	日	日

後記

修正 修正 修正 作成